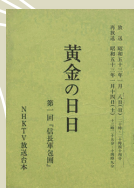
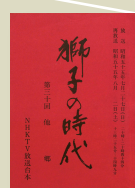
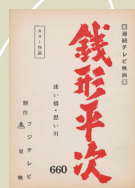
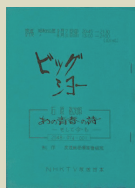
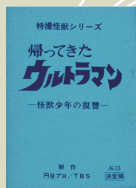
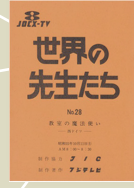
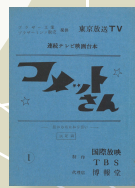
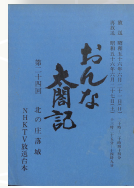
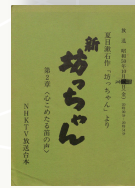
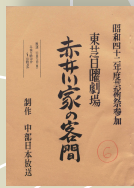
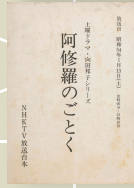


平成 28 年度事業報告書

# 文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究



～放送番組の脚本・台本のアーカイブ構築に向けて～



一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

## 目 次

### I 今年度のコンソーシアムの活動概要

1. 平成 28 年度の年間計画と実績概要

### II 脚本の収集・保存・公開の実務

1. 平成 28 年度の新規受入れについて
2. 国立国会図書館のデジタルコレクション
3. 川崎市市民ミュージアムでの公開と個人情報被覆

### III データベース展開とデジタルアーカイブ検討

1. 「脚本家データベース」プロトタイプ作成
2. Web サイト「永六輔バーチャル記念館」

### IV 脚本の教育活用の試行

1. ワークショップ、ヒヤリング、インターンシップ

### V コンソーシアム主催シンポジウムの開催

1. 脚本アーカイブズシンポジウムの概要

### VI 脚本アーカイブの展望に向けた課題整理

1. コンソーシアムの課題について

# I 脚本アーカイブズ事業の全体進展

## 1 コンソーシアム活動 5年間の経過による成果

日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムが一般社団法人として立ちあがったのは2016月。この6月で丸5年を経過し、文化庁よりの助成がひと区切りとなることから、今年はいわば節目の年を迎えている。そのためにも、脚本アーカイブズの現状の把握、ここまでの検証は重要である。

本コンソーシアムは、2005年からの日本放送作家協会による脚本アーカイブズ事業を引き継ぎ、「収集→公的機関への移管による一般公開」という大きな筋道を確実なものにしてきたが、その進展の大きな契機は、2011年の文化庁と国立国会図書館による文化アーカイブ推進に向けた「協定」であった。

その運命的な後ろ楯をベースにしつつ進めてきたコンソーシアム活動の5年間であったが、本事業におけるこの間の成果とその意義を以下まとめてみる。

### 1)過去の放送脚本の一般公開化の実現

収集・管理までで止まっていたアーカイブ活動を、本来的に目標としていた脚本公開に向け、公開場所（国立国会図書館、川崎市市民ミュージアム等）を確保し、また公開までの手順を切り開き、ついに「公開」を実現化させた。

その流れを具体化するにあたっての障壁をとり除く工程として、放送局等の関連機関・権利者団体などキーとなる関係者を協力者として含み込んで「コンソーシアム」が立上げられ、実務検討チームとして「脚本アーカイブズ検討委員会」に関係者メンバーを招集できたことが有効な場となっていった。特に保存・移管・公開に関する「権利処理」の方法案が検討委員会で時間をかけ議論されていったことが、極めて功を奏した。

### 2)保存脚本のデータベースの進化

アーカイブの土台ともなるデータベース（メタデータ記載も含む）については、以前よりあったWeb上の「脚本データベース」（収集済み脚本の）を元にして、年々インターフェイスを進化させていった。

メタデータ（書誌データ）のあり方の検討や他の施設でのデータ入力方法の調査も行われて度々更新がなされ、移管した所蔵先が明解に分かる形ともなり、また表紙サムネイルのデジタル化による掲載など充実化が図られた。今後の脚本アーカイブの統合検索に向けて中心的な機能を果たすものと考えている。

### 3)デジタル化展開、デジタルアーカイブズの試行実施

紙資料である脚本の永久保存に向けたデジタル化の体系的な試行が始められている。既に40年・50年以上経っている謄写版印刷の藁半紙のもの劣化・破損化は保管管理上の重要な課題となっている。国立国会図書館の選抜脚本3000冊のデジタル化の意味合いはいろいろと大きい。(全国図書館への公衆送信という公開上の意義とも繋がってくる。)

また、デジタル化後の活用試行として、「市川森一の世界」「藤本義一アーカイブ」、「永六輔バーチャル記念館」(作製中)等の「デジタル脚本アーカイブズ」のWebサイト運営もアーカイブのデジタル化試行の大きな進展のひとつとなっている。

デジタル化関連については、ここまでの試行を踏まえ今後は、脚本アーカイブズの全体像をイメージしながら段階的に検討を進めていく必要がある。

#### 4) 脚本活用に関する模索的な実行

脚本公開、デジタル化を基にした活用策の試行錯誤が行われている。主にコンソーシウム自身は、大学研究者や脚本家とも連携して、中学校ほかでの「教育活用」のトライアル実行を積重ねてきた。今後も、様々な試行が行われていく中で活用の有効なあり方が広がっていくものと思える。

#### 5) 脚本の第2次大規模収集の進行

散逸・消失の危機にある1980年代以前の脚本を中心に、大規模収集・受入れを行っている。放送作家への遺族への呼びかけもあらためて実施しているが、常に告知を展開し、常に受入れ窓口を開いておくことが、緊急収集が欠かせないアーカイブズ推進組織の使命と考えている。2次収集の脚本についても、データ整理と公的機関への移管手続きを今後進めていくが、今後3年～5年のうちには公開まで辿りつく段取りを組みたい。

#### 6) アーカイブズ活動に関する意識改革

関係組織・機関とのさまざまな連携、収集に向けた告知、シンポジウムの毎年開催等、上記に沿った具体活動を進めてきたことで、「放送脚本の保存」「アーカイブズ活動」の意義等についての関係者の意識が大きく変わり始めている。今までただ困難と思い込んでいたことが実現していき、そこにあらたな文化的な価値を見出していくことで、関係者や一般の人々をあらためて動かしていくようなステージが上がったような土壌ができつつある。

上記のようなコンソーシアムの成果を踏まえつつ、今後のコンソーシアム活動では、進化していく文化アーカイブの全体状況も見据える必要がある。そして、将来的に脚本アーカイブズ事業の運営主体をどうしていくのかという検討が根本的な課題となってくる。

## 2 今年度コンソーシアムの活動結果 概要

今年度の具体的な活動の状況は、各実施計画の項目に関して次の通りである。

## (1) 脚本のデータベースに関する取り組みと研究

### ① Web サイト「脚本データベース」のデータ・サムネイル更新

新たに収集した脚本 17,769 冊のデータ追加入力を行った。これまでの脚本アーカイブズ活動の資料収集数の合計は 83,511 点になる。

脚本の表紙画像サムネイルの公開化を継続して実施した。今年度国立国会図書館での表紙撮影分はおよそ 7000 冊になり、国立国会図書館所蔵脚本の 2 万 7 千冊すべてを完了してサムネイルをデータベースへ掲載した。

### ② 所蔵施設と連携した統合検索に向けて

国内の脚本所蔵施設（公共図書館、文学館等）と連携した統合検索システムの構築実現に向けて、各施設の所蔵状況に関するデータ確認、各館へのアンケート調査の再整理を行った。

### ③ 著作者典拠データについての試行的な検討

脚本家に焦点をあてた「脚本家データベース」の構築に向けてベータ版の作成を開始した。（3 月 9 日の脚本アーカイブズ・シンポジウムで一部をデモ公開）

### ④ 国外からのアクセスの検討に向け海外研究者アンケート実施

Web 上の「脚本データベース」に海外からのアクセスの可能性が高まってきている。海外から見て、データベースの利用利便性はどうか等、アメリカの大学研究者を中心にアンケート調査を行った。

## (2) 脚本のデジタル化に関する研究と試行

### ① 国立国会図書館所蔵脚本のうち 3000 冊の全文デジタル化実施

今年度共同研究事業として、国立国会図書館における所蔵脚本 2 万 7 千冊のうち、ジャンル全般において代表作として選ばれた脚本およそ 3000 冊の全文デジタル化作業が行われた。

### ② 新たに寄贈を受けた脚本のデジタル化

国立国会図書館において、元々火災被害で破損気味の脚本や酸性劣化の激しい脚本等を選び、順次デジタル化を実施した。

### ③ 上記のインターネット掲載について

著作者から許諾を得られたものについては、Web 公開に向けて「脚本家データベース」ベータ版に掲載を予定している。

#### ④「デジタル脚本アーカイブ企画」の取組み

「市川森一の世界」「藤本義一アーカイブ」の Web サイトの運営実績を踏まえ、第三弾として「永六輔バーチャル記念館」の作製を行っている。関係者インタビュー等のコンテンツ準備も進めつつ、写真の著作権者不明時についての対策、映像公開の方法と課題などの検討も行っている。公開は平成 29 年 7 月 7 日を予定。

また、作家個別のアーカイブという視点を広げ、過去・現在の脚本家たちを体系化したデジタルアーカイブのあり方についてベータ版作成の検討を行った。デモ版としてデータベースイメージを検討し、設計は国立情報学研究所 高野明彦研究室に依頼し制作を進めた。

### (3) 保存と公開における課題検討と実践

#### ① 作家・制作者へのヒヤリング

1980 年代以前に関係する放送番組制作者・放送作家に対して、脚本の受入れに際してはヒヤリングを行った。一部は VTR でインタビューを撮影し、脚本家データベース等への掲載も予定している。

#### ② 新たな収集活動——1980 年代以前の放送作家の遺族への呼びかけと受け入れ

脚本家の遺族に対し、昭和の作品を中心に集中的な提供呼びかけを行った結果、貴重な脚本が相当数集まった。

今年度の収集実績は 17,700 冊を超え、昨年度より 4 千冊多い。

#### ③ 重複している収集脚本の寄贈検討

集まった脚本はこれまでのものとの重複も含まれ、今後もそうした状況は予想される。この場合のあらたな方策として、国内の大学組織や海外の大学図書館へ寄贈を行う可能性やその具体的な方法の検討を開始している。一部はその脚本番組の制作の放送局自体との折衝を進め、来年度以降の寄贈を予定している。

#### ④ 脚本移管先機関との連携・共同作業実施

国立国会図書館とは、新たな移管に関する相談を進行させている（平成 32 年以降で検討）。川崎市市民ミュージアムとは、一般公開に合わせ個人情報の記載のある脚本 2000 冊のその部分情報の被覆作業等を行った。

#### ⑤ 脚本アーカイブズ・シンポジウムの開催

脚本アーカイブズの今後の位置づけを検討しつつ、この意義をより広く広報していくために、以下のイベント企画を実施した。

「脚本アーカイブズ ・ デジタル活用の未来」

～デジタル脚本と映像を共に楽しむ方法とは～

日時：3月9日（木）13時半～17時

場所：早稲田大学小野記念講堂

共催：文化庁,早稲田大学演劇博物館

後援：国立国会図書館,NHK,日本民間放送連盟,放送番組センター,  
放送文化基金,放送人の会

※映像アーカイブとの連携を視野に映像と脚本の対比に視点がおかれた。

※映像使用については、放送局から提供を受けて上映を実施した。

## ⑥ 教育活用の試行

脚本の教育分野での活用の模索として、以下を試行的に実施した。

- 1)中学生向けのラジオ創作講座
- 2)小学生向け映像制作講座（9回実施）
- 3)インターンシップの受け入れ
- 4)修復専門の学生による脚本内の個人情報被覆
- 5)「北海道放送ライブラリー」の資料を扱う学生との懇談

## (4)脚本アーカイブズ検討委員会の実施

上記の研究推進のため、放送局、アーカイブ関連の組織、権利者団体、研究者等で構成された「脚本アーカイブズ検討委員会」を年間2回開催し、脚本アーカイブズの現状を踏まえつつ、今後における課題等を検討した。（参加者：別紙）

第1回検討委員会　6月30日　（於・東京大学大学院情報学環 会議室）

第2回検討委員会　12月13日　（於・日本脚本家連盟 会議室）

## II 脚本の収集・保存・公開の実務

### 1. 平成 28 年度の新規受入れについて

今年度は、昨年度に引き続き、散逸や消失の危機にある 1980 年代まで（昭和の時代）の脚本に対して重点的な収集作業を行い順調に進めることができた。

#### (1) 呼び掛けによる収集

9 月中旬に日本脚本家連盟にご協力により、脚本家の御遺族宛に下記の内容の書面を 340 通送付。

脚本家・放送作家のご家族の皆様

#### 放送脚本の保存・公開に向けたお願いについて

##### 貴重な放送脚本を 後世に向けて残していくための取組みが進行中です——

当組織 一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム(代表理事 山田太一)では、只今放送作家のご家族の皆さまに、あらためまして脚本アーカイブズ活動へのご協力のお願いをさせていただいております。

##### 脚本アーカイブズ活動とは？

放送脚本を収集し、公的機関での保存と公開を進めている活動です。2003 年、故・市川森一氏（当時 放送作家協会理事長）の提唱により始まりました。その後 2012 年より本コンソーシアムにその運営が引き継がれております。

これまで 1980 年以前の脚本 2 万 7 千冊を国立国会図書館に移管し、現在一般向けに公開されております。また 1981 年以降のもの 1 万 5 千冊は、川崎市市民ミュージアムにおいて今年 6 月より公開が開始されました。

ご承知のように、放送脚本が体系的に保存・公開される方法や場所は今までありませんでした。古い脚本は次第に消失してしまうことが現実でした。今、貴重な放送文化資産を後世に継承していくべきという機運が高まっている中、本コンソーシアムは文化庁の委託事業としてこの活動を推進しております。

今年度は特に、昭和の時代（1980 年代まで）の脚本に絞って大規模な収集作業を行っております。お忙しいところ誠に恐縮ですが、皆さまの元に保管されている脚本をご確認いただき、是非今回ご提供いただければと願っている次第です。この活動の趣旨を充分ご理解いただき、何卒よろしくごお願い申し上げます。



結果、今年度末までに 21 名の脚本家御遺族より寄贈の申し出と問い合わせがあり、うち 18 名からは脚本をご寄贈いただいた。(二神淑子、山西伸江、白井房枝、矢代朝子、宮丸千恵子、田村暁夫、谷口泰雄、小松章子、岩井光子、宮田慶子、小泉清子、安藤恵子、土井邦夫、藤井麻子、川村慎二、田向章子、今戸葉二、岡島孝佳) このうち、1 件を除いては今年度中に整理保管が完了。(計 2946 冊)

## (2) 寄贈申し出による受入れ

川崎市市民ミュージアムでの脚本公開の報道を受けて、1 件脚本寄贈の申し出があり受け入れた。(渡辺茂光、41 冊)

番組制作者(中野昌弘、堀川とんこう、波多腰晋二、嶋田親一)からの寄贈申し出 4 件(計 940 冊)、関連団体・施設(NHKアーカイブス、放送ライブラリー)からの寄贈 2 件(計 10577 冊)を受け付けた。(※放送ライブラリーの冊数は今年度データ入力分のみの数)

また、研究者を通じて番組制作者大山勝美氏の脚本 204 冊を受け付けたり、NHKアーカイブスに個人から寄贈があったもののうちNHK以外で放送された脚本 671 冊を受け付けました。その他、脚本家本人・上記書面送付以前の脚本家御遺族・制作者遺族等から 2002 冊の寄贈があった。

## (3) 今期収集した脚本の概要

今年度収集した脚本は、昨年度に引き続き昭和時代の脚本を中心に収集活動を行ったことと放送ライブラリーから寄贈された物の中に古い脚本が多数存在していたこと等から、1980 年以前の脚本を 1 万冊以上集めることができた。番組制作者からは、新しい年代の物も寄贈されたが、撮影にあたってのカメラ割りや演技プラン、連絡事項等が事細かに書きこまれているものが多く、研究者や番組制作を志望する人たちにとって将来貴重な資料となりうる脚本が多数集まった。以下、一部であるが紹介したい。

### ・辻真先氏寄贈の脚本

放送作家協会を通じて放送ライブラリーに保管されていた約 1 万 5 千冊の脚本のうちの約 1 割が辻氏寄贈の脚本である。その半分以上は国民的アニメ「サザエさん」の脚本であり、辻氏以外にも多数執筆されている雪室俊一、城山昇氏の脚本もある。他にも「アタック No.1」「オバケの Q 太郎」「宇宙少年ソラン」「巨人の星」「ゲゲゲの鬼太郎」など名だたるアニメ作品の脚本が多数存在する。

他にも桂真佐紀筆名のテレビ構成番組「ドリーム・コーナー」やラジオ構成番組「ナイト・キャッスル」の台本などもあり、氏の多彩な活動を物語っている。

### ・故・小野田勇氏寄贈脚本

小野田氏は平成 9 年に 77 歳で死去。NHK の連続テレビ小説「おはなはん」や、「若い季節」「銀座わが町」「男は度胸」等を手掛けた脚本家であり、劇作家でもある。御子息である

小野田正氏がNHKアーカイブスに脚本を寄贈した際に民放の作品も多数あったため、NHKアーカイブスを経由して民放ドラマ脚本が寄贈された。当コンソーシアムに寄贈された作品としては、テレビドラマ「青春の門」（毎日放送）、「怪盗ねずみ小僧」（朝日放送）、東芝日曜劇場「かげろうは春」（TBS）、「うちが愛したろくでなし」（日本テレビ）、「度胸時代」（TBS）、「海峡物語」（テレビ朝日）、ラジオコメディドラマ「牛乳屋フランキー」、「ありちゃんのおかっぱ侍」など多数。コメディからシリアスなドラマまで幅広い活躍が偲ばれる脚本群である。

#### ・中野昌弘氏寄贈脚本

中野昌弘氏は TBS やフジテレビで番組契約のディレクターとして活動後、テレビ朝日に入社。現在はフリーランスでドラマ演出等を手掛けている。BS 朝日放送制作のミニドキュメンタリー番組で宮川泰氏を取り上げ宮川氏出演の脚本撮影のためにスタッフとともに当コンソーシアムを訪れた際に、自分が保管している脚本を寄贈したいと自らお申し出いただいた。年代は新しいものが多いが、郷ひろみ・樹木希林のコンビで歌もヒットした「ムー一族」、明石家さんまと大竹しのぶが共演した「男女七人夏物語」「男女七人秋物語」、浅野ゆうこ浅野温子のW浅野で話題となった「抱きしめたい！」（TBS）、トレンドドラマを定着させた「君の瞳に恋してる」「同・級・生」「世界で一番君が好き」、今でもシリーズが継続している「世にも奇妙な物語」（フジテレビ）など、40代以上の世代が若かりし頃胸をときめかせて試聴していたであろう懐かしいドラマ脚本が多数集まった。

#### ・波多腰晋二氏寄贈脚本

波多腰氏は元日本テレビのディレクター、プロデューサー。放送人の会で当コンソーシアムの活動を知り、ご寄贈をお申し出くださった。入社初期の頃に手掛けた「ダイヤル110番」をはじめ「あがり一丁」「ちんどんどん」「ちんぷいぷい」「となりのとなり」「太陽は沈まず」「法医学教室の午後」「女かじき特急便」など、長年制作に携わった日本テレビのドラマ台本をご寄贈いただいた。併せて番組の企画書、番組スチール写真、セットの青焼き図面等、制作関係者あらではの貴重な資料も多数頂いた。

#### ・高木凜・堀川とんこう氏寄贈脚本

当コンソーシアムからのアンケート等で活動を知った高木凜氏ご本人から寄贈の申し出をいただき、次いで夫君の堀川とんこう氏所蔵の脚本もご寄贈いただいた。高木氏からは「黄色い髪」「デュエット彼女たちの選択」「包丁いっぽん夢見ていますか」「結婚はいかが」（NHK）、東芝日曜劇場「息子よ」「ツッパリ娘が父親の泥棒を見た」（TBS）等々のドラマ脚本、堀川氏からは演出を手掛けた「七人の刑事」「七人の孫」竹下景子がソープ嬢を演じて話題になった「モモ子シリーズ」や現在の連続ドラマスタイルとなった東芝日曜劇場「丘の上の向日葵」「ボクの就職」「昨日の敵は今日の友」（TBS）などがある。

#### ・放送ライブラリーからの寄贈脚本

放送ライブラリーに保存されている約1万5千冊の脚本については、前年度の75箱に引き続き、残り105箱分の10372冊の脚本データを入力し倉庫に保管した。前述の辻真先氏の

他には、横光晃氏、茂木草介氏、知切光蔵氏等の昭和 20 年代～昭和 50 年代までのラジオ・テレビドラマ脚本が際立って多い。

昭和 20 年代の脚本は、劣化がすすんでいるので国立国会図書館への移管を待たず早急のデジタル化が望まれる。

#### ・作家遺族からの寄贈脚本

9 月に作家遺族に向けての寄贈呼び掛けで申し出があったうち、200 冊以上の寄贈事例を紹介する。

##### ・故・谿溪太郎氏

名古屋在住の放送作家で、主に C B C、東海テレビなどの地元局制作の構成・ドラマ番組の台本を執筆。子供向け教育番組「目で見る科学」(CBC)は 1959 年～1962 年にかけて放送され、初回から 176 回までの台本が全て揃っている。

##### ・故・宮田達男氏

「七人の刑事」「特別機動捜査隊」「咲子さんちょっと」「本番 OK」「天下の若者」「犯人を挙げろ」など 1950 年代～70 年代にかけてのテレビドラマ台本を執筆。寄贈台本のほとんどがハードカバーで合本されている。寄贈にあたり娘の宮田慶子氏（舞台演出家）は「幼い時から、長い年月その背表紙を眺めながら来た本達なので、なんだか兄妹を送り出すような心地です。どなたかのお目に留まり、お役に立つ事があれば、なによりの幸せです。」とのコメントを寄せてくださった。

##### ・故・田向正建氏

連続テレビ小説「ロマンス」、大河ドラマ「武田信玄」「信長」、銀河テレビ小説「レイコの歯医者さん」など NHK で放送された作品が印象深いが、今回「見えない影」(テレビ朝日)「しあわせ戦争」「わが子は他人」「椿の散るとき」(TBS)などの脚本を多数ご寄贈いただき、民放でも幅広く執筆されていたことを改めて認識させられた。

##### ・故・七条門氏

「太平洋戦争 謎の戦艦陸奥」などの映画脚本のイメージが強いが「伝七捕物帳」「花笠お竜」などの時代劇、「アタック No.1」「ルパン三世」「侍ジャイアンツ」などのアニメ、「ジャイアントロボ」「悪魔くん」「アタック拳」などのテレビドラマなど、幅広いジャンルでの活躍を示す脚本群が御子息の岡島孝佳氏から寄贈された。

##### ・故・砂田量爾氏

「七人の刑事」「娘たちの四季」などのシリーズや連続ドラマも手掛けているが、一話完結スタイルだった東芝日曜劇場を数多く執筆されている。今回寄贈された脚本 217 冊のうち約 4 分の 1 は東芝日曜劇場の脚本である。

■今年度収集脚本の内訳、総数は以下の通り。

【平成28年度脚本収集作業進捗状況表(2017年1月現在)】

	寄贈者名	1980年以前 放送	1981年以降 放送	映画	演劇	アニメ	重複	寄贈者別冊 数
1	曾我部弘子	196	49	10	8		44	307
2	放送ライブラリー	7354	744	5	18	210	2041	10372
3	NHKアーカイブス	178					27	205
4	辻真先(確認中)	146				1389		1535
5	角田洋子		21	10				31
6	高木凜		57					57
7	堀川とんこう	55	46	2	3			106
8	阿井文瓶	35		28				63
9	渡辺茂光		41					41
10	齋藤喜美子(デジタル化)	★12						0
11	小野田正(川口経由)	546	10	3	3		109	671
12	波多腰晋二	184					52	236
13	中野昌宏	80	273	1	2		184	540
14	田淵寛							0
15	鈴木康仁							0
16	二神淑子(砂田量爾)	168	38				11	217
17	橋本圭介(田代淳二)							0
18	山西伸彦夫人							0
19	田中敏江(書籍1冊)							0
20	白井房枝(白井更生)	41	17				2	60
21	矢代朝子(矢代静一)	6	2	1	27		1	37
22	宮丸千恵子(井戸晶雄)	4						4
23	田村暁夫(田村幸二)	15		1				16
24	谷口泰雄(谿溪太郎)	668	2				44	714
25	小松章子(小松君郎)	64	6	1	1		1	73
26	岩井光子(岩井晃)	7					1	8
27	宮田慶子(宮田達男)	393		4			8	405
28	森久保(龍至政美)	220	94				72	386
29	小泉キヨコ(小泉源太郎)	58						58
30	安藤恵子(安藤日出男)	124	34				66	224
31	土井邦夫(土井行夫)	226		2			46	274
32	藤井麻子(土井行夫)	6	1	1	82		1	91
33	嶋田親一	29	5	3	22		1	60
34	川村真二(邑井操)	2						2
35	金子あゆみ(金子登)							0
36	田向章子(田向正健)	145	211				39	395
37	大山勝美	41	162		1			204
38	今戸葉二(今戸公德)	65					2	67
39	岡島孝佳(七條門)	204		27		56	14	301
40	北阪昌人		4					4
41	藤本統紀子	4			1			5
		11264	1817	99	168	1655	2766	17769

※平成29年1月 入力済資料

分類	寄贈・移管先	現在の総計	28年度収集実績	27年度収集実績	26年度までの収集実績
1980年以前の放送(脚本移管済)	国立国会図書館	27,219			27,219
1980年以前の放送脚本	住友倉庫保管(国会図書館へ寄贈希望)	19,214	11,264	6,811	1,139
1981年以降の放送脚本(脚本移管済)	川崎市市民ミュージアム(27年度寄贈分)※	15,545		-14	15,559
1981年以降の放送脚本	川崎市市民ミュージアム(第二期寄贈予定)	6,976	1,817	5,159	
映画シナリオ	東京国立近代美術館フィルムセンター(一部倉庫保管)	1,705	99	439	1,195
演劇台本	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館(一部倉庫保管)	819	168	243	408
生原稿(世田谷由来の作家のみ)	世田谷文学館	91			91
生原稿(NHK放送分)	三番町倉庫保管(NHK放送博物館と交渉中)	434			434
アニメ(移管済)	日本動画協会香託	1,305			1,305
アニメ	倉庫保管	1,854	1,655	199	
放送禁止台本、個人情報資料など	三番町倉庫保管(移管先不可)	100			100
歌謡ショー等イベント	住友倉庫保管(移管先未定)	421		13	408
複本	川崎市市民ミュージアム(移管先検討中)	4,386	833	374	3,179
複本	放送ライブラリー(返却・保管中)	2,103	1,300		803
NHK放送の複本(放送局に未所蔵資料のみ)	NHKアーカイブス	633	633		
劣化、個人資料、複本廃棄希望のため	返却・廃棄(複本返却希望の資料は入カ・カウント除外)	678		600	78
	総計	83,511	17,769	13,824	51,918

## 2. 国立国会図書館における公開

### ■ 国立国会図書館 デジタルコレクションに脚本約 3000 冊が掲載

国立国会図書館デジタルコレクション 言語(Language): 日本語

すべて   [詳細検索](#)  インターネット公開  図書

[検索結果に戻る](#) **6羽のかもめ:さらばテレビジョン. 26(終)**

▼ 書誌情報

**書誌情報**  
[詳細レコード表示にする](#)  
 永続的識別子  
 info:ndljp/pid/10258082

タイトル  
 6羽のかもめ:さらばテレビジョン. 26(終)

脚本家・放送作家、原作者  
 倉本聰

放送局・制作  
 CX  
 CX、新制作

放送年月日  
 1975-3-29

注記  
 管理番号:N01-24614-00

請求記号  
 Y851-N01-24614

公開範囲  
 館内公開  
[詳細レコード表示にする](#)

国立国会図書館ホーム Copyright © 2011 National Diet Library. All Rights Reserved.

## 書誌データ項目

- タイトル
- 脚本家・放送作家・原作者
- 放送局・制作
- 放送年月日
- 注記
- 請求番号
- 公開範囲

## ■脚本資料表紙部分の電子化作業の実施概要について

(報告：株式会社ニチマイ)

### (1) 作業内容

脚本資料の表紙部分のみをスキャニングし、画像データを作製  
スキャニング作業は、全て国立国会図書館指定場所にて実施

### (2) 作業工程について

- 1) 当日作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業
- 2) スキャニング作業
- 3) 画像検査作業
- 4) 画像ファイル変換作業
- 5) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

※1) 2) の作業は国立国会図書館内にて実施、3) 4) 5) は弊社にて実施

### (3) 電子化仕様

- 1) 解像度：400dpi
- 2) 認識サイズ：原寸認識
- 3) 階調特性：24ビットフルカラー
- 4) データ形式

シングル TIFF/PDF


- 5) 格納メディア

HDD

### (4) 使用スキャナー

コニカミノルタ社製 EPICWIN5000CMK II Lab ×1台 (弊社所有機器)

スキャナー仕様

EPICWIN5000CMK II Lab	
	
出力解像度	200、240、300、400、600 (光学解像度 400dpi)
スキャンモード	24bit カラー、8bit グレースケール、2 値



原稿サイズ	330mm×460mm
サイズ	W674mm×D787mm×H918mm
生産国、メーカー	日本 コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社

※EPICWIN5000CMK II Lab の画像及び仕様はコニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社の当該機カタログより抜粋。

### (5) 作業実施時期・場所等

#### 1) 国立国会図書館内作業期間及び作業時間

平成 28 年 10 月 4 日～平成 28 年 10 月 20 日（作業日数：12 日間）

平成 28 年 10 月 4 日弊社スキャニング機材等搬入／平成 28 年 10 月 21 日機材搬出

・作業時間：9 時～17 時

#### 2) 作業場所

・国立国会図書館本館 1F 収集書誌部資料保存課試験室

#### 3) 作業体制

・表紙部分のスキャニング作業

スキャニング作業員 1 名（文書情報管理士 1 級）／スキャニング前整理作業員 1 名

#### 4) 作業数量

・表紙部分のスキャニング作業

7,303 ファイル

### (6) その他

#### 1) 資料状態について

資料の一部については劣化しているものがあつたが、全体的には良好と思われる。

#### 2) 資料取扱いについて

封筒からの出し入れ時に、封筒に資料が引っ掛かる等で資料が傷まないように留意して作業を行った。

#### 3) 資料の管理について

資料点数の管理・・・作業前に資料確認をおこなって資料点数管理を行った。

資料と封筒の管理・・・脚本資料は封筒にはっている状態であり、スキャニング作業に当たり封筒からの資料の出し入れは 1 点 1 点ずつ行った。脚本資料本体には管理番号等ラベルが貼付されないので、封筒への戻し間違い等起こらないように実施した。

#### 4) 資料形態等

・1 封筒に複数の脚本が入っていることは無かつた。

・今年度は合本製本が多くあつた。脚本の表紙のみスキャニングを行ったので問題なかつたが、合本製本の綴じがきつく本文に係っている脚本が多くあつたので、本文をスキャニングする場合には解体等の解決策の検討が必要と考える。

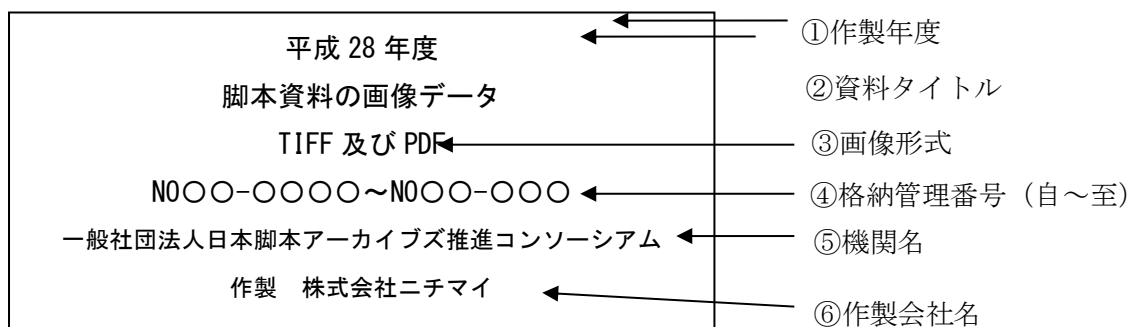
- ・昨年度に引き続き合冊製本の場合、合冊製本の表紙が台本の表紙ではないので注意した。
- ・昨年に引き続きリストと保管されている資料の並びが今回のように一致していることが重要と考える。

(資料リストと保管されている資料の並びが一致していない作業前の読み合わせ等が困難になり資料管理が煩雑になってしまい、作業進捗にも影響が出てくる恐れがある。)

## ■脚本資料電子化作業仕様

### 【1】電子化仕様

- 1) 認識サイズ：原寸認識
- 2) 解像度：400dpi
- 3) 階調特性：24ビットフルカラー
- 4) データ形式  
シングル TIFF 及び PDF
- 5) 格納メディア  
HDD
- 6) ファイル名  
管理番号+分冊番号 例 NO1-15529-00
- 7) フォルダー名  
※基本表紙のみで1ファイルとなるため設定は不要。
- 8) HDD ラベル



### 9) スキャニング対象

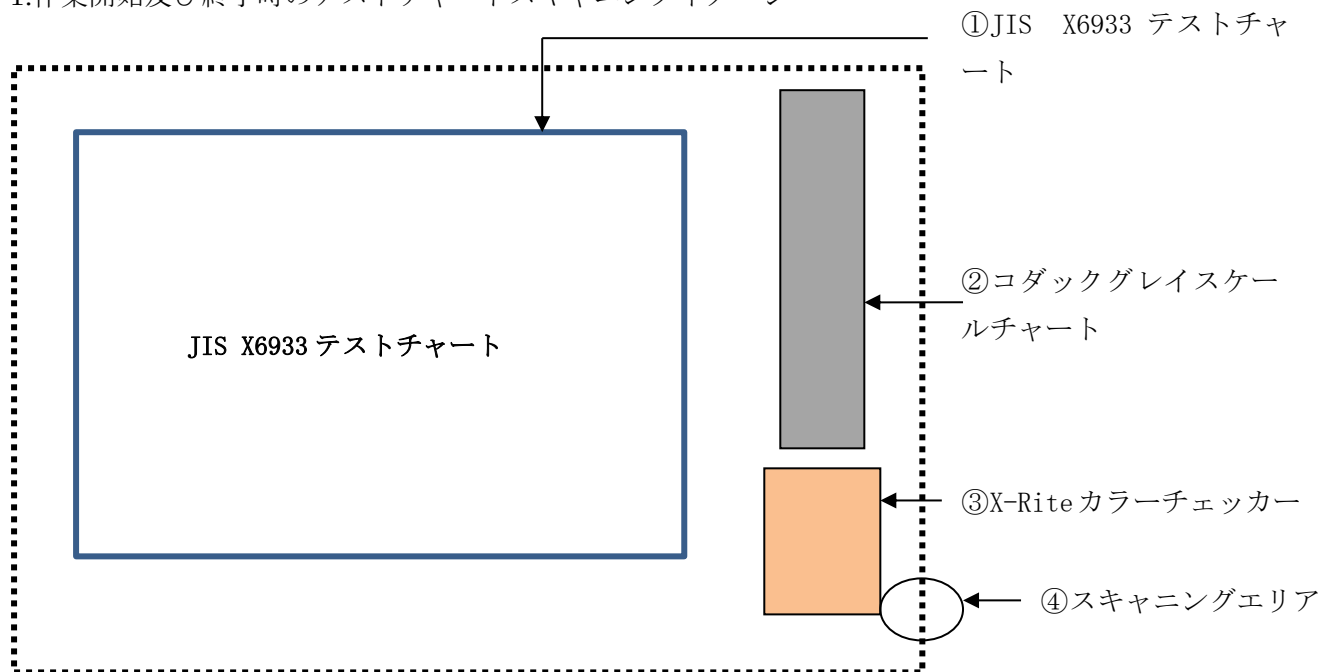
表紙のみスキャニングを行う。ただし合本製本されている脚本は都度指示を仰ぐ。

(脚本が合本製本されている場合には基本合本の表紙をスキャニングすることになるが、合本製本の表紙にタイトル等表記が無い等があるため)

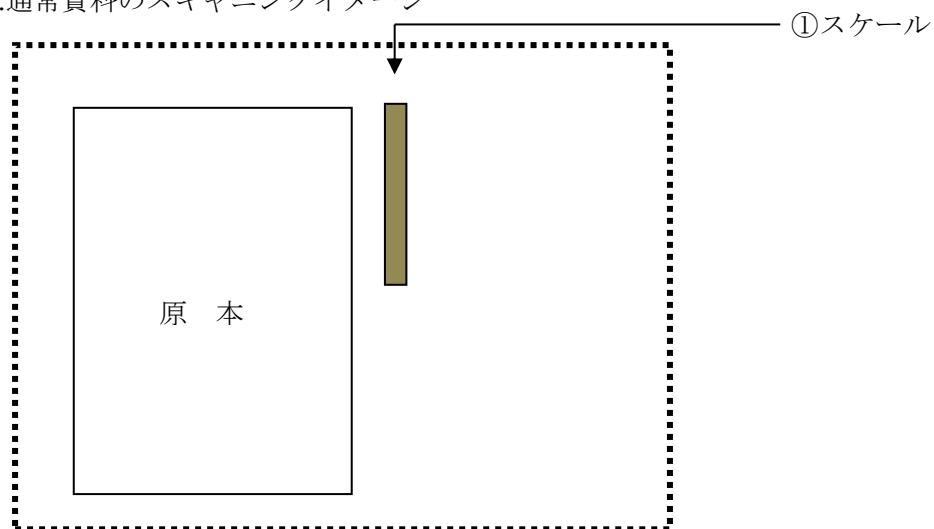
10) スキャニング時の原本及びスケール・チャート類の位置及びスキャニングエリア

【納品 TIFF 画像イメージ】

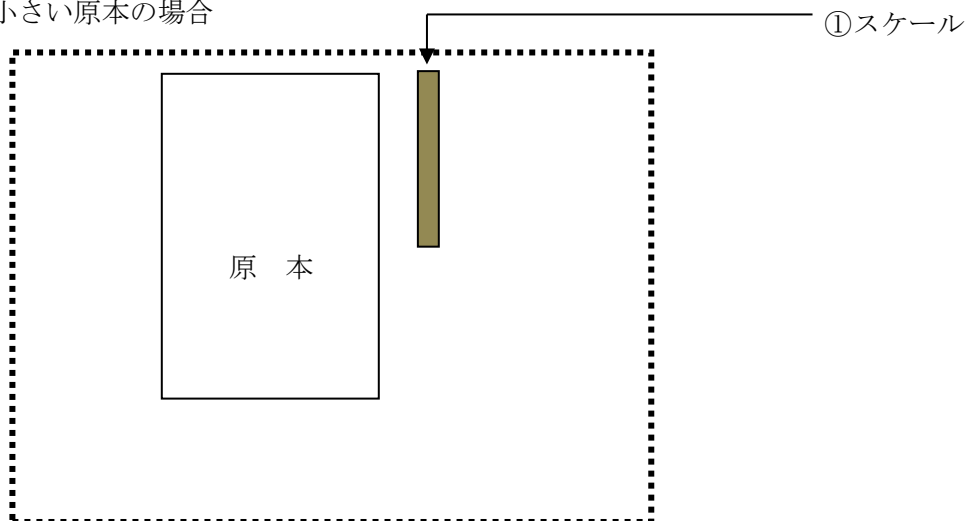
1.作業開始及び終了時のテストチャートスキャニングイメージ



2.通常資料のスキャニングイメージ



### 3.小さい原本の場合



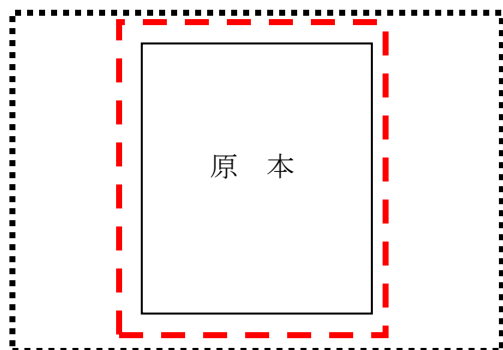
小さい原本の場合には、スケール・チャート類の位置及びスキャニングエリアは固定し、スキャニングを実施する。

原本の位置はスケールにおおよそ合わせて配置する。

### 4.PDF ファイルトリミングイメージ

#### 【納品 PDF ファイル】

その後画像が欠けない範囲（110%～130%）でトリミングを実施する。



### 3. 川崎市市民ミュージアムにおける公開

平成28年6月9日  
報道発表資料

## テレビ・ラジオ番組の脚本・台本の公開開始 ＜日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムが寄贈した約13,000冊＞

平成28年6月17日（金）から川崎市市民ミュージアムにて、テレビ・ラジオ番組の脚本・台本約13,500冊の公開が開始されます。文化庁の委託事業として日本放送作家協会が収集し、一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムが引き継いだ約5万冊のうち、1981年以降から2012年までにテレビ・ラジオで放送された脚本等について、川崎市市民ミュージアムに寄贈し、保存、公開されます。（1980年以前放送の脚本等は国立国会図書館へ約27,000冊が寄贈され、公開されています）

脚本等は、出版物とは異なり、体系的に保存する体制がとられてこなかったため、散逸・消失の危機にさらされています。

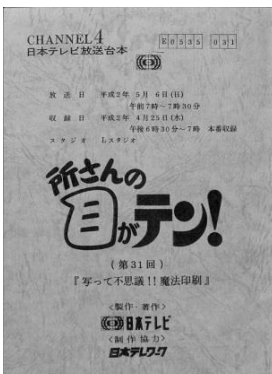
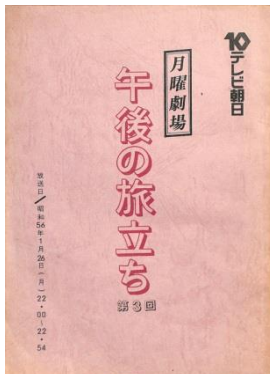
俳優や演出家を使用した脚本には、演技プランやカット割りなどが書込まれているものもあります。その他、ロケ現場の撮影写真が資料として貼付された台本など、作品の内容や番組の制作過程などをうかがい知ることのできる貴重な資料といえます。

#### 1 公開開始日

平成28年6月17日（金）

#### 2 公開方法

閲覧場所での閲覧公開のみとなります。※公開される脚本例



### 3 閲覧場所

川崎市市民ミュージアム3階

ミュージアムライブラリー

開室時間 9:30～17:00

受付時間 9:30～16:30

<http://www.kawasaki-museum.jp/library>



(閲覧場所のミュージアムライブラリー)

### 4 公開する脚本等の内訳

	ドラマ	構成*	人形劇*	海外作品その他	計(冊)
テレビ	8,482	2,786	163	343	11,774
ラジオ	1,493	126	—	3	1,622
その他資料等					147
計					*13,543

\*構成＝バラエティ、歌謡番組等の構成台本。人形劇＝子ども向け人形劇の台本。

\*寄贈は今後も継続して行われる予定です。準備が整い次第、順次公開予定です。

### 5 脚本等の例

- ・大河ドラマ：「花の乱」「八重の桜」「龍馬伝」「花の乱」「おんな太閤記」ほか
- ・連続テレビ小説：「純ちゃんの応援歌」「おひさま」「ちゅらさん」「梅ちゃん先生」ほか
- ・シリーズドラマ：「水戸黄門」「三匹が斬る」「暴れん坊将軍」「さすらい刑事純情派」ほか
- ・バラエティなど：「タモリの音楽は世界だ」、「所さんの目がテン」「サラリーマンNEO」ほか
- ・ラジオ：FMシアター、青春アドベンチャー、ラジオ図書館ほか
- ・俳優寄贈：三田佳子さん、藤村志保さん

### 6 利用上の注意

- 閲覧は研究目的を原則とし、申込書に記入の上、閲覧場所での閲覧となります。(館外への貸出は行っていません)
- 一度に閲覧できるのは3冊までです。追加の希望は、貸出を受けている脚本等を返却の上、再度、申込みをしてください。(回数の制限はありません)
- 資料の検索は「脚本データベース」(日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム管理)をご利用ください。URL：<http://db.nkac.or.jp/>
- 脚本等の複写は出来ません。(スマートフォン及びカメラ等での撮影も不可)
- メモ書き等にあたっての筆記用具は鉛筆を使用してください。  
消しゴム、ボールペン、シャープペンシル、万年筆等は使用できません。
- 取材目的で複写を希望される方は、寄贈元にご相談ください。

### 7 公開に関するお問合せ

川崎市市民ミュージアム

〒211-0052 川崎市中原区等々力1番2号

作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数
小川英	822	井沢満	70	横山玲子	35	横田理恵	23	田口耕三	17
内海謙司	508	今井詔二	67	元木すみお	35	花登筐	23	日下尚子	17
尾西兼一	507	内村宏幸	67	佐伯俊道	35	樫田正剛	23	保利吉紀	17
木崎徹	372	竹山洋	66	酒井真琴	35	鹿水晶子	23	峯尾基三	17
佐々木守	348	福田靖	64	水原明人	35	篠崎絵里子	23	鈴木勝児	17
布勢博一	347	木原たけし	61	青柳祐美子	35	真部千晶	23	河村達樹	16
宮川一郎	320	水野しげゆき	60	伴一彦	34	大森美香	23	佐藤五月	16
市川森一	264	蔵元三四郎	59	鎌田敏夫	33	大藪郁子	23	司透	16
竹内日出男	263	深沢正樹	57	倉田ひさし	33	野沢尚	23	小林富美	16
横田弘行	262	大川俊道	57	玉井冽	32	横光晃	22	松井智代子	16
大野靖子	240	AKO	52	輿水泰弘	32	岡本さとる	22	杉山義法	16
保富康午	234	四十物光男	52	神部恒彦	31	丸尾聡	22	石松愛弘	16
大石静	229	杉昌英	52	中村健太郎	31	山賀淳子	22	土橋成男	16
尾関恩	216	西川晋	52	ちやき克彰	30	川上英幸	22	浜田悠	16
吉田紀子	211	中野顕彰	52	井上頌一	30	武田浩	22	そ一たに	15
遠藤敦司	199	土屋竹志	49	岩崎良子	30	北川哲史	22	井出真理	15
沢口義明	197	富永智紀	49	今井雅子	30	鈴木則文	22	吉本昌弘	15
津田幸夫	189	橋本テツヤ	48	篠崎好	30	永田優子	21	高橋留美	15
津川泉	173	八田雄三	48	川崎良	30	五島百合子	21	山元清多	15
関根清貴	171	佐藤ひろみ	46	早坂暁	30	香取真理	21	山田正弘	15
塚田茂	166	鈴木聡	46	南川泰三	30	榊暁彦	21	山内浩嗣	15
香取俊介	163	たなべまもる	44	野村正浩	30	新井友香	21	寺田敏雄	15
スタッフ東京	152	戸田山雅司	44	岡崎栄	29	斎藤圭子	21	大宮エリー	15
浅野妙子	148	原田裕文	43	神山由美子	29	池田政之	21	棚瀬美幸	15
井上きよたか	142	山本むつみ	43	田上雄	29	オークラ	20	中谷まゆみ	15
壬生耕介	133	松原敏春	43	伊藤海彦	28	塩田千種	20	中野俊成	15
胡桃哲	131	須藤出穂	43	岩間芳樹	28	岡芳郎	20	藤本匡介	15
伊藤豊英	123	尾崎将也	43	平松政俊	28	玉井貴代志	20	飯野陽子	15
栗田悌志	120	橋本和子	42	いとう斗士八	27	田井洋子	20	垂槍文代	14
田淵久美子	120	矢島正雄	41	岸宏子	27	藤井青銅	20	鴨井達比古	14
朝長浩之	115	遊川和彦	40	金谷祐子	27	榎本壮志	20	吉田剛	14
古内一成	110	井上由美子	39	高橋正園	27	岡本克己	19	橋本以蔵	14
藤本有紀	109	金子裕	39	黒土三男	27	下川博	19	後藤法子	14
金子成人	105	森治美	39	秦建日子	27	河野洋	19	佐々木健一	14
小松江里子	102	前川洋一	39	東多江子	27	山田浩康	19	坂元裕二	14
奥山侑伸	97	富川元文	39	相良敦子	26	石川孝人	19	坂田義和	14
入山さと子	93	野村六助	39	渡辺あや	26	村上博基	19	清水東	14
宮下康仁	91	寺内小春	38	鈴木導	26	筒井ともみ	19	西岡琢也	14
橋田壽賀子	87	斉藤樹実子	38	だいもん孝之	25	服部佳	19	大久保昌一良	14
高谷信之	87	長川千佳子	38	高橋秀樹	25	北原優	19	町山広美	14
大西信行	85	藤井邦夫	38	須川栄三	25	本間紀夫	19	渡辺典子	14
岡田恵和	84	井川公彦	37	石谷洋子	25	遠藤察男	18	渡邊睦月	14
中島文博	84	館川範雄	37	矢頭浩	25	奥村俊雄	18	米沢啓子	14
白木礼司	82	山田貴美子	37	たむらようこ	24	加瀬高之	18	TFCグループ	13
宮村優子	81	山田太一	37	綾瀬麦彦	24	古川壬生	18	オカモト國ヒコ	13
森脇京子	81	山本雄史	36	井上もんだ	24	川嶋澄乃	18	旺季志ずか	13
稲葉明子	78	進藤光太	36	加藤恭子	24	湯口浩	18	関えり香	13
ジェームス三木	77	西荻弓絵	36	山田洋次	24	梅林貴久生	18	金子ありさ	13
関秀章	77	中村勝行	36	志摩左木男	24	福田卓郎	18	原田ケンジ	13
野中浩之	77	長野洋	36	清水曙美	24	梶本恵美	17	国弘威雄	13
田村隆	75	畑嶺明	36	西沢裕子	24	高橋稔	17	秋元康	13
三田良平	72	北村のん	36	田向正健	24	倉本聰	17	小松與志子	13
大森寿美男	72	葉村彰子	36	クリタヤスシ	23	谷登志雄	17	小野田俊樹	13
池端俊策	72	櫻井康裕	36	井上知幸	23	仲倉重郎	17	水谷和彦	13

作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数
大河内聡	13	菱田信也	10	荒木敏子	7	斎藤伸晃	6	都築浩	5
田子明弘	13	野波静雄	10	今野勉	7	石坂伸太郎	6	難波江由紀子	5
田中晶子	13	鈴木桂	10	佐久間崇	7	石森史郎	6	白石マミ	5
北村篤子	13	和久田正明	10	砂田量爾	7	川崎洋	6	白川幸洋	5
櫻井武晴	13	高橋麻紀	10	坂上かつえ	7	曾我部博士	6	飯島早苗	5
DNP	12	アサダアツシ	9	三宅直子	7	相内美生	6	富樫佳織	5
さくらももこ	12	吉村ゆう	9	山屋美晴	7	大石隆一	6	武上純希	5
ジェームス・三木	12	江頭美智留	9	酒井澄夫	7	大川タケシ	6	平岩弓枝	5
浦沢義雄	12	高岡尚平	9	小西聖一	7	大谷広治郎	6	望月正人	5
花房朋香	12	高田純	9	小林悦子	7	渡辺良二	6	麻生かさね	5
岩松了	12	山本英明	9	松本醇	7	日暮裕一	6	林誠人	5
君塚良一	12	酒井あきよし	9	上條逸雄	7	尾崎順子	6	MilanStitt	4
高木凜	12	小林克彰	9	青木和佳	7	堀田りえこ	6	いずみ玲	4
志村正浩	12	倉澤左知代	9	多地映一	7	野上龍雄	6	トランスグローバル	4
重森孝子	12	大石哲也	9	大田一水	7	李正姫	6	ますもとたくや	4
松山善三	12	田辺満	9	宅間孝行	7	李文子	6	綾部伴子	4
森下直	12	柏原寛司	9	池田裕幾	7	鈴木正光	6	伊佐治弥生	4
清水有生	12	福田雄一	9	中嶋信哉	7	ふたくちつよし	5	伊藤義信	4
青山茂	12	福田陽一郎	9	朝間義隆	7	ペンハウス	5	羽原大介	4
石原武龍	12	野依美幸	9	鶴島光重	7	安井国穂	5	永井愛	4
桃井章	12	鈴木浩介	9	渡辺哲夫	7	永津愛子	5	越智真人	4
藤森いずみ	12	井辺清	8	土田英生	7	遠藤憲一	5	奥寺佐渡子	4
内館牧子	12	関根俊夫	8	島田満	7	遠藤淳	5	奥村和男	4
飯田譲治	12	吉野晃章	8	那須真知子	7	乙川恒樹	5	横山一真	4
北阪昌人	12	荒井修子	8	飛鳥ひろし	7	岩下悠子	5	横澤英雄	4
龍居由佳里	12	高梨武志	8	富田義朗	7	菊原共基	5	岡田正代	4
榎雄一郎	11	今村文人	8	堀田延	7	吉田智子	5	岡本和宏	4
向田邦子	11	山浦雅大	8	友澤晃一	7	古井知克	5	下等ひろき	4
砂本量	11	山田珠美	8	鈴木康仁	7	江間浩司	5	下飯坂菊馬	4
水島総	11	出倉宏	8	ミラーカク子	6	江連卓	5	加藤裕司	4
扇澤延男	11	小木曾豊斗	8	加藤綾子	6	高橋玄洋	5	笠博勝	4
中園健司	11	小野沢実	8	加藤公平	6	高瀬真尚	5	岸田理生	4
中島玲子	11	松岡孝	8	岩佐憲一	6	高田宏治	5	宮田和実	4
田中直人	11	松本茂樹	8	吉井三奈子	6	高平哲郎	5	宮藤官九郎	4
楠本ひろみ	11	森和盛	8	橋本綾	6	高木達	5	橋田寿賀子	4
梅田みか	11	西田公久	8	近藤博幸	6	寺崎要	5	近沢浩和	4
飯田茉莉子	11	相葉芳久	8	窪田篤人	6	小林雄次	5	喰始	4
野島伸司	11	大島里美	8	古沢良太	6	松宮梓	5	江良至	4
あけど陽子	10	大野武雄	8	古田求	6	松本人志	5	高羽彩	4
さわだみきお	10	長谷川勝士	8	高際和雄	6	上野友夫	5	高橋いさを	4
阿部美佳	10	鄭義信	8	高須光聖	6	杉山王郎	5	高村美智子	4
原すすむ	10	南賀明子	8	腰山一生	6	石原純一	5	黒沼美佳子	4
山永明子	10	八木伸栄	8	佐藤かんじ	6	前田治行	5	佐藤晃一	4
山田信夫	10	柘達雄	8	佐藤久美子	6	倉本美津留	5	佐藤嗣麻子	4
新井尚子	10	氷沼玲二	8	坂本正彦	6	大原豊	5	斎藤明	4
森下佳子	10	芳崎洋子	8	篠崎貴浩	6	瀧川晃代	5	山浦弘靖	4
水橋文美江	10	和山泰明	8	諸岡豊	6	仲宗根ゆうこ	5	山口セツ	4
水谷龍二	10	芦沢俊郎	7	小山内美江子	6	猪又憲吾	5	山崎淳也	4
清水喜美子	10	井上ひさし	7	小池康生	6	長坂秀佳	5	山田小夜子	4
石井信行	10	遠藤まもる	7	小林政広	6	長谷川朝二	5	山田隆司	4
村川克信	10	下河内一雄	7	松木ひろし	6	長野容子	5	山内久	4
大原清秀	10	下山啓	7	城戸口寛	6	津由裕之	5	山路勝也	4
中園ミホ	10	橋本裕志	7	新井光	6	田村多津夫	5	篠原高志	4
中山乃莉子	10	江口美喜男	7	杉村のぼる	6	田中澄江	5	柴英三郎	4



作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数
若月ユウ陽	4	安倍徹郎	3	西島大	3	王浙濱	2	柴田侑宏	2
酒井直行	4	安本莞二	3	石倉保志	3	岡部耕大	2	秋房子バジヤマ党岩	2
小林竜雄	4	伊上勝	3	前田司郎	3	岡本一彦	2	秋葉純子	2
松井尚	4	井上尚登	3	前田悠衣	3	下島三重子	2	渋谷陽一	2
松居大悟	4	井波克美	3	村井さだゆき	3	加藤まなぶ	2	小原弘稔	2
章田宙谷	4	稲原誠	3	村上龍	3	花輪こうじ	2	小川美篤	2
植田紳爾	4	右近亨	3	大倉利晴	3	皆川隆之	2	小谷正治	2
水口智理	4	鶴沢茂郎	3	大平洋	3	外山信行	2	小中千昭	2
菅沼潤	4	益子強	3	大野勝彦	3	岸本康子	2	小林久枝	2
西沢七瀬	4	岡田敬二	3	大野敏哉	3	岩瀬理恵子	2	松浦健郎	2
浅野有生子	4	岡本貴也	3	樽谷春緒	3	岩立良作	2	松原史明	2
前田陽一	4	加藤宏美	3	池広一夫	3	雁田昇	2	植竹公和	2
草野旦	4	加納佳代	3	長谷川洋	3	鬼沢慶一	2	植澤紀子	2
村上卓史	4	丸岡ひさし	3	長田澄江	3	吉田弥生	2	新妻富保	2
村尾昭	4	岩村匡子	3	長田聖一郎	3	久松真一	2	森崎和江	2
太田哲則	4	鬼塚幸一	3	塚本のりこ	3	宮崎由香	2	森川一郎	2
大倉徹也	4	吉仲賢三	3	佃典彦	3	宮川賢	2	深沢幹彦	2
池田一朗	4	久貴千賀子	3	田代淳二	3	宮川大助	2	深谷陽子	2
竹田康一郎	4	久保田千太郎	3	渡辺啓	3	宮田雪	2	神波史男	2
中岡京平	4	橋本麻希子	3	渡辺健一	3	宮内婦貴子	2	須永修一郎	2
中村結美	4	栗田進二	3	内田裕士	3	宮本順子	2	須藤実	2
中村努	4	原教子	3	内藤英一	3	居作中一	2	水木洋子	2
中野直哉	4	古館プロジェクト	3	馬場当	3	橋本忍	2	杉岡士朗	2
朝永振一	4	荒井雅樹	3	萩原芳樹	3	金戸美苗	2	杉紀彦	2
塚本隆文	4	荒井晴彦	3	迫間健	3	桑田健司	2	杉紀彦とMAD5	2
鶴間政行	4	高橋正康	3	樋口ミュ	3	結束信二	2	杉本守	2
鶴谷あづさ	4	高橋直也	3	柘真琴	3	古坂圭子	2	瀬川昌治	2
田中江里夏	4	高橋裕幸	3	野村安史	3	向井正男	2	成田勝也	2
田部俊行	4	高須晶子	3	柳川茂	3	工藤千夏	2	成島正浩	2
渡辺善則	4	高木良子	3	廣岡豊	3	広瀬順弘	2	正塚晴彦	2
登坂恵里香	4	今野覚	3	櫻井智也	3	高橋功	2	清水友陽	2
土屋斗紀雄	4	佐藤繁子	3	ikbnライターズ	2	高山ひでとし	2	清本由紀	2
湯浅弘子	4	斎藤樹実子	3	あべ	2	高山直也	2	西純子	2
藤永野火子	4	細川光	3	イケタニマサオ	2	合津直枝	2	西村タカン	2
藤堂平助	4	鮫肌文殊	3	ケニー門谷	2	轟ワタル	2	斉藤紀美子	2
洞澤美恵子	4	三浦昭彦	3	サカイヒロト	2	黒田有	2	石井君子	2
楠田芳子	4	山下君子	3	すずまさ	2	今野いづ美	2	石井彰	2
能地祐子	4	山崎純	3	つかはら	2	佐々木勝俊	2	石井信之	2
白木礼二	4	山本文明	3	ニコラ・パタイユ	2	斎藤樹美子	2	千葉さく子	2
塙五郎	4	柴田昭	3	ミラン・スティット	2	坂木正彦	2	前川宏司	2
樋口美友喜	4	小金丸大和	3	もとひら了	2	桜井慎一	2	前田幸一	2
疋田哲夫	4	小山協子	3	わぐりたかし	2	笹生八穂子	2	前田昌平	2
武田有起	4	小森名津	3	安延拓美	2	三浦まどか	2	村田勢津子	2
豊村剛	4	小倉朗	3	安田真奈	2	三上幸四郎	2	太田イサム	2
望木倪東子	4	小峰正博	3	伊沢勉	2	三谷幸喜	2	大工富明	2
妹尾匡夫	4	小椋久雄	3	伊藤尚光	2	三谷昌登	2	巽祐一郎	2
國澤真理子	4	小野高義	3	一色伸幸	2	山岡真介	2	谷口純一郎	2
ダンカン	3	松井信幸	3	一木晃	2	山下勝三	2	池上純哉	2
つかさけんじ	3	新居耕治	3	稲葉一広	2	山口美穂	2	竹尾明子	2
はたせいじゅん	3	新藤兼人	3	宇山圭子	2	山崎巖	2	竹友ミカ	2
ほそかわ紀子	3	森岡利行	3	羽柴秀彦	2	山上ちはる	2	中原悦子	2
ポビー白木	3	杉山五郎	3	奥津啓治	2	山田櫻	2	中村恵子	2
阿井文瓶	3	菅沼定憲	3	横田与志	2	山名宏和	2	中村比香	2
阿古健	3	清水正人	3	王興東	2	鹿目由紀	2	仲井美樹	2

作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数
朝永正果	2	JACKMARLOWE	1	伊藤正宏	1	鎌田順也	1	金子俊彦	1
朝倉寛	2	KENKOLB	1	伊藤大輔	1	鴨居達比古	1	金森匠	1
長束利博	2	ROBERTU.BANRON	1	伊藤豊英	1	漢雅流	1	金森直哉	1
長谷川康夫	2	あかぎてるや	1	伊藤亮二	1	関功	1	金沢祥宇	1
鳥海尽三	2	あくつせいじ	1	井手雅人	1	関克子	1	金沢達也	1
津田幸於	2	あさのゆうき	1	井手貴臣	1	関順子	1	金龍郎	1
田坂啓	2	アベカズヒロ	1	井上泰治	1	関澄一輝	1	桑原裕子	1
田村孟	2	いずみ吉紘	1	井上梅次	1	館川範雄	1	桂千穂	1
田中伊知郎	2	いなにわ勝利	1	井上美穂	1	岸一成	1	結城のぶ	1
田中撰	2	ウォーリー木下	1	井上敏樹	1	岩井秀人	1	原雅裕	1
田波靖男	2	おおぬまいくこ	1	井上芳夫	1	岩元南	1	原田ひ香	1
渡辺千明	2	オルガ・ストルスコバ	1	井波克実	1	岩城レイ子	1	原田菜緒子	1
土屋理敬	2	カイ・グレン	1	磯村生得	1	岩城未知男	1	原田博行	1
東條真弓	2	かとうまなぶ	1	一尾直樹	1	岩田君代	1	源高志	1
湯本香樹実	2	カニリカ	1	雨笠純一	1	岩澤景子	1	古賀牧彦	1
藤井貢	2	キム・テグワン	1	永井孝裕	1	岐部昌幸	1	古田由紀子	1
藤岡俊幸	2	クリストファー・ハンブ	1	永井準	1	気賀沢宏隆	1	互井誠	1
藤江洋一	2	クロスオーヴァーフア	1	永原秀一	1	吉井美奈子	1	後藤直	1
藤本信行	2	グロリア・エスコメル	1	永沢慶樹	1	吉岡友治	1	後藤禎子	1
内海重典	2	こうけつゆきひろ	1	永沢洋二	1	吉岡和彦	1	工藤素太郎	1
内田史子	2	コーネリアス・グリーン	1	永六輔	1	吉川次郎	1	広井由美子	1
内田真里苗	2	さいふうめい	1	益子一男	1	吉田光一	1	広岡豊	1
南千尋	2	しおつか夢	1	円道沙哉	1	吉田豪	1	広瀬大輔	1
南木顕生	2	しばがきけんじ	1	園田真由美	1	吉田秀和	1	皇達也	1
日野原幼紀	2	すずきB	1	遠藤彩見	1	吉田小夏	1	荒川慎司	1
萩本欽一	2	たかたかし	1	遠藤淳/桃原弘	1	吉田伸	1	高岸優子	1
白井更生	2	ちやき克彰	1	奥村剛	1	吉田真童	1	高久進	1
白井鐵造	2	つちだだいすけ	1	奥中惇夫	1	吉田典正	1	高橋京子	1
畔柳賢朗	2	ニッポン放送	1	押川國秋	1	吉田玲子	1	高橋二三	1
武豊	2	はかま満緒&ギャグ・	1	横山亮子	1	吉野万理子	1	高崎志乃	1
福間正浩	2	はせひろき	1	岡田茂	1	久下谷浩	1	高田陽介	1
福地邦夫	2	はやしだ茂	1	岡部俊夫	1	久慈俊旭	1	高野角枝	1
福田恭子	2	ハンネリース・タツシヤ	1	岡本育子	1	久世進	1	高野三郎	1
文化放送報道部	2	ビル・クラーク	1	岡本克巳	1	久保原茂	1	国分洋	1
平田嘉男	2	フジノサツコ	1	岡野ゆうき	1	久利一	1	黒岩夕城	1
北村安湖	2	フジ制作	1	荻原芳樹	1	久里子亭	1	黒沢久子	1
堀江利幸	2	ブルースカイ	1	下関竜	1	宮下潤一	1	黒田義之	1
木村浩子	2	マイラン・ステイット	1	下村万作	1	宮崎真由美	1	今戸榮一	1
木野聡	2	マギー	1	下村優	1	宮川鎮一	1	今村良樹	1
有岡具子	2	ミラー・カク子	1	下尾雅美	1	宮沢章夫	1	佐々木功	1
有村雅和	2	レナード・ガードナー	1	加東康一	1	宮本康宏	1	佐々木利男	1
利光隆一	2	亜土久	1	加藤宗博	1	橋口亮輔	1	佐藤奈央	1
李珍	2	阿相クミコ	1	加藤泰	1	橋秀憲	1	佐藤茂	1
立原りゆう	2	渥美珠己	1	可児理華	1	橋塚慎一	1	佐藤雄介	1
両沢和幸	2	旭享子	1	河野宏	1	橋部敦子	1	才賀明	1
林一臣	2	安斎あゆ子	1	花柳啓之	1	橋本信吾	1	斎藤博	1
鈴江俊郎	2	安西徹雄	1	我妻正義	1	玉城悟	1	細谷ゆかり	1
鈴木智	2	安達もじり	1	海老原靖芳	1	芹口節子	1	細田哲也	1
鈴木竹志	2	安達謙太郎	1	灰谷健次郎	1	近藤孝磨	1	坂井隆夫	1
鈴木裕那	2	安達充	1	柿崎明彦	1	近藤俊明	1	坂口理子	1
櫻井昭宏	2	安達奈緒子	1	角英正	1	近藤昭二	1	榎原直樹	1
鶉野昭彦	2	安藤日出男	1	笠井健夫	1	金井寛	1	桜井ひろし	1
齊藤珠緒	2	伊東雅司	1	梶研吾	1	金山武文	1	桜井康裕	1
B・H企画株式会社	1	伊藤滋之	1	釜沢安希子	1	金子修介	1	桜井剛	1

作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数
笹川勇	1	小野垣貴子	1	成田匡希	1	大橋泰彦	1	長崎行男	1
三好宏和	1	小野田勇	1	清水邦夫	1	大橋由葉	1	長瀬未代子	1
三好聡子	1	小野竜之助	1	清水由紀	1	大森一樹	1	長谷川公之	1
三島久乃	1	小林俊一	1	盛善吉	1	大西大助	1	長谷川洋子	1
三木孝祐	1	小林智子	1	西ゆうじ	1	大川佳美	1	長田充	1
三木章雄	1	小林哲也	1	西井史子	1	大前玲子	1	長野県映画教育協会	1
三木敦	1	小林竜男	1	西条道彦	1	大村貴行	1	鳥海二郎	1
山下世理子	1	小林竜夫	1	西川つかさ	1	大谷哲郎	1	鳥山拓	1
山下哲	1	松井洋介	1	西村有加	1	大塚孝典	1	陳志樺	1
山下六合雄	1	松下ゆづる	1	西沢実	1	大能邦也	1	津曲ラッキー	1
山根幸子	1	松宮信男	1	西田広子	1	大名祥子	1	椎名まさし	1
山根尚樹	1	松崎浩	1	西島哲也	1	大野克夫	1	塚田均	1
山崎忠昭	1	松山源一	1	西脇良典	1	大野哲郎	1	辻俊哉	1
山西伸彦	1	松川幸乃	1	青山均	1	大良美波子	1	辻本昌平	1
山村一間	1	松本功	1	青島利幸	1	滝栄一	1	鍋木将宣	1
山中茉莉	1	松本美弥子	1	青木豪	1	滝村富裕	1	天羽ミュキ	1
山田紀子	1	上下真三	1	青目海	1	滝本祥生	1	添谷泰一	1
山田孝則	1	上杉祥三	1	斉藤樹美子	1	滝洗一郎	1	添田忍	1
山田幸子	1	上西研三郎	1	斉藤清貴	1	沢橋凜	1	田村晋也	1
山田章治	1	上川伸廣	1	斉藤猛	1	棚橋順子	1	田中のぶ	1
山田千詠	1	上藤聡	1	斉藤由紀子	1	谷口秀一	1	田中義一	1
山田典吾	1	城啓介	1	石原健次	1	檀上茂	1	田中浩司	1
山田隆之	1	信本敬子	1	石黒正保	1	池大気	1	田畑稔	1
山内鉄也	1	新倉イワオ	1	石川雄一郎	1	池田一之	1	田辺信一	1
山本おさむ	1	新津康子	1	石村嘉子	1	池田幾三	1	田淵佐奈	1
山本ワタル	1	新内こたえ	1	石塚千秋	1	池田起教	1	渡瀬慎太郎	1
司城志朗	1	森ハヤシ	1	石塚千明	1	池田太郎	1	渡辺えり子	1
市田峯子	1	森頭一朗	1	石田勝心	1	池田雄一	1	渡辺匠	1
志村和哉	1	森純夫	1	石堂淑朗	1	池澤夏樹	1	渡辺正行	1
詩村博史	1	森直也	1	折戸泰二郎	1	竹島達修	1	渡辺文代	1
児玉頼子	1	森田と純平	1	千葉ひでき	1	竹内きよのり	1	渡辺裕介	1
寺島誓	1	森内淳	1	千葉雅子	1	竹本浩三	1	渡辺眞理	1
持丸和朗	1	森保鉄志	1	川島浩司	1	中井多津夫	1	渡邊健一	1
実相寺昭雄	1	森和哉	1	川内康範	1	中園ミホほか	1	土井行夫	1
柴田俊生	1	深町一夫	1	前岡晋	1	中丸智司	1	土屋保文	1
芝原彬	1	深尾道典	1	前原一磨	1	中江有里	1	島崎伊織	1
若林彰	1	神吉拓郎	1	前川知大	1	中山淳太郎	1	島崎啓一	1
取材・高梨安英	1	神田卓郎	1	前田憲男	1	中条原始	1	島津秀泰	1
首藤剛志	1	秦恒平	1	曾田博久	1	中西隆三	1	島田源領	1
秋田佐知子	1	水野真理	1	倉本聡	1	中村孝昭	1	島本十郎	1
渋井ゆり子	1	水野晴郎	1	宋英徳	1	中村志保	1	島良輔	1
渋谷未来	1	水野麻里	1	早野円	1	中村樹基	1	嶋田葵	1
重森孝	1	杉岡士郎	1	相原かさね	1	中村進	1	東憲司	1
楯敦夫	1	杉屋薫	1	増子	1	中津留章仁	1	東龍男	1
所ジョージ	1	杉山夏江	1	足達りつこ	1	中田明成	1	湯浅ひろ子	1
勝栄	1	杉山奈緒子	1	村上純	1	中島吾郎	1	藤井香織	1
小笠原英樹	1	杉本光司	1	村上知行	1	中島淳彦	1	藤井友紀	1
小原信治	1	杉本明生	1	村上和行	1	中本博通	1	藤岡麻美	1
小山泰雄	1	菅原誠	1	村田恭子	1	中野貴雄	1	藤原タクヤ	1
小寺隆韶	1	菅野光雄	1	村木克生	1	中野俊哉	1	藤森琢子	1
小松左京	1	菅良幸	1	多田剛	1	中澤香織	1	藤川一弘	1
小川康生	1	瀬川保	1	大関弘政	1	猪爪慎一	1	藤村公洋	1
小川乃倫子	1	成井豊	1	大岩賞介	1	猪俣博史	1	藤田京子	1
小田切勇	1	成瀬活雄	1	大橋秀和	1	町行慈	1	藤田恭子	1

作家名	件数	作家名	件数	作家名	件数
藤平ちや子	1	保木本真也	1	林民夫	1
徳田祐子	1	峰順一	1	鈴木	1
奈須亮三	1	峰添忠	1	鈴木おさむ	1
奈良一弘	1	蓬萊泰三	1	鈴木しゅんじ	1
内藤誠	1	蜂飼耳	1	鈴木亜繪美	1
南海永美子	1	望月敏	1	鈴木克夫	1
南条隆明	1	北浦嗣巳	1	鈴木哲	1
楠野一郎	1	北口義孝	1	和合亮一	1
日和聡子	1	北川悦吏子	1	和泉二郎	1
播田ナオミ	1	北泉優子	1	和嶋浩秀	1
波多野忠夫とベンギ	1	北村哲也	1	國弘威雄	1
馬場泰一郎	1	牧戸次郎	1	澤井康成	1
馬島満	1	堀川正巳	1	齋藤恵美子	1
白井更正	1	堀田佳己	1	瀨瀬幸博	1
白崎和彦	1	本間英行	1	齊藤圭子	1
白石雄大	1	本城美智子	1	高崎志乃	1
畑山博	1	本多筆治	1		
飯田輝雄	1	本田英郎	1		
飯島直昭	1	魔久平	1		
飛野温美	1	麻創けい子	1		
樋口卓治	1	妹尾匡男	1		
尾崎香仁	1	毎日放送	1		
尾首大樹	1	牟田桂子	1		
尾上貴洋	1	棕露地桂子	1		
品川能正	1	毛利恒之	1		
浜田英哉	1	木下亮	1		
浜田紀政	1	木皿泉	1		
富岡恵美子	1	木村雅夫	1		
富岡多恵子	1	門田雅史	1		
富澤エイジ	1	野依美依	1		
富澤栄司	1	野上龍男	1		
富田純孝	1	野条美由紀	1		
普久原晃二	1	野尻靖之	1		
武井彩	1	野村	1		
武村知子	1	野村耕三	1		
武藤将吾	1	野村正満	1		
武良勇児	1	野添和子	1		
風見信之介	1	野呂映志郎	1		
福永莞爾	1	矢代彩子	1		
福岡秀広	1	矢田尚	1		
福崎麻里	1	矢野直哉	1		
福地美穂子	1	有高扶桑	1		
福留功男	1	有川周一	1		
平井靖人	1	有村昌記	1		
平岡秀章	1	有馬雪枝	1		
平瀬友岐子	1	遥洋子	1		
平田勝茂	1	立松和平	1		
米倉宏一	1	寮美千子	1		
米谷純一	1	林海象	1		
米田いずみ	1	林企太子	1		
別役実	1	林圭一	1		
片岡薫	1	林宏司	1		
片山芳子	1	林山武人	1		
保富康午とオールラ	1	林信男	1		

#### 4. 個人情報被覆作業

【作業時間】 10:00～16:30 (実質作業時間 5時間30分)

【作業日数】 17日間

【作業人数】 7名 (のべ57名)

※作業は東洋美術学校・保存修復科の学生が担当

【作業場所】 川崎市市民ミュージアム 研修室

【作業冊数】 約2000冊

【作業行程】

- ① 研修室 机・椅子・道具の準備作業と配置。  
道具：刷毛、水差し、タッパ（糊盆として使用）、糊、カッター、定規、雑巾
- ② テーブルに台本を配置（箱順に作業）
- ③ 作業する台本を袋から取り出し、袋は入っていた箱の中に戻す。
- ④ 付箋の貼ってあるページを開き、付箋で指示してある被覆箇所を確認。  
（リスト順に被覆箇所を照合しつつ作業）
- ⑤ 被覆箇所の大きさに合わせて深緑の和紙をカット。  
\*被覆箇所が小さい場合は、無理にその大きさに合わせなくてもよい。  
被覆対象になっていない箇所も含めて何行かにわたって大き目に被覆してもよい。
- ⑥ 深緑の和紙より縦横1cm大きく白い和紙をカット。
- ⑦ 深緑の和紙の四隅に水で溶いた澱粉糊を塗り(写真1)、白い和紙の中央に貼り付ける(写真2)。
- ⑧ 白い和紙の縁に水で溶いた澱粉糊を塗り、(糊の粘度の目安は「固めのヨーグルト」。紙質等に合わせて濃さを適宜調節)脚本の被覆箇所が深緑の和紙で隠れるように貼り付ける(写真3)。  
\*元の状態に戻す場合、筆で接着箇所に水を塗ると、が溶けて和紙が剥がれる。  
被覆した文字に直接貼り付けたわけではないのでダメージは極小に抑えられる。  
\*刷毛で糊づけの際、カッティングシートの角に和紙の端を合わせて左端、下端に糊付けの後、180度回転して同じ箇所に糊付けすれば、カッティングシートは糊で汚れることがない。  
\*乾かす時間を短く抑えたいので、糊はなるべく少な目で。
- ⑨ 糊づけの後、被覆した箇所をパラフィン紙でくるみ、その上から普通のコピー用紙を挟んで閉じる。
- ⑨ 閉じた台本の上に重しを載せて乾かす。
- ⑩ 乾いた台本の番号を確認して袋に入れて、入っていた箱に戻す。



(写真1)



(写真2)



(写真3)

### 【被覆する個人情報】

基本的にテレビ局局内・撮影所・会社・所属事務所・組合・協会等、ホームページや電話帳で調べられる電話番号は個人情報とはみなさない。

今回、被覆する個人情報の定義

- ・事務所に所属していない「フリー」「個人」俳優の電話番号
- ・スタッフの携帯電話番号（但し、030、020等で始まる古い番号は除外）
- ・一般参加の視聴者の連絡先・住所
- ・番組で取り上げた取材先の個人宅電話番号（組合や店舗、会社は除外）
- ・時代考証・所作指導・方言指導・翻訳者・構成作家・脚本家等の自宅と思われる連絡先
- ・会社・テレビ局・事務所に所属していないフリーのスタッフの連絡先  
（衣装、メイク、編集、タイムキーパー（TK）、スタイリスト、アニメ、題字、音楽等。  
スタッフ一覧表の「所属」の欄が空白になっている）

### 【作業風景】



被覆箇所に合わせて和紙をカット



被覆部分にパラフィン紙とコピー紙を挟み重しをして乾かす作業

## 5. 他機関へのヒヤリング

### 公益財団法人 松竹大谷図書館

東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 3 階 TEL : 03-5550-1694

HP : <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/index.html>

開館時間 : 平日午前 10:00~午後 5:00

休館日 : 土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日

5 月 1 日、11 月 22 日、年末年始、春期および夏期特別整理期間

公益財団松竹大谷図書館主任司書 武藤祥子氏にお話を伺った。

#### ■現在の脚本の資料数

映像(映画)台本 20,716 点、テレビ台本 3092 点、ラジオ台本約 200 点。

歌舞伎、演劇台本、スチール写真、ポスター、スクラップ、パンフレット等の資料も合わせると、総数 45 万 7 千 435 点。(うち、スチール写真の割合が最も高い)

#### ■資料の保存方法

平成 22 年度に伺った時と同様、作品 1 タイトル毎に板目ファイルで複数資料をまとめて保存。(例) 台本「釣りバカ日誌 20」で閲覧申請を出すと、準備稿・撮影台本・完成台本と複本をまとめて出納。閲覧者の希望に沿ったバージョンの台本を閲覧してもらう。

(写真) クラウドファンディング協力者の名前はこの板目紙に記載



#### ■書誌情報の記入方法

平成 22 年取材時と変わらない。平成 16 年よりカード目録からパソコンデータ入力に移行したが、新規寄贈資料の入力が多いため、既存のカード情報の遡及入力は追いついていない。

#### ■「フリーキーワード」「あらすじ」などの記載は？

映画については「allcinema データベース」に載っているあらすじの文中にあるワードを記載。(例「原発」「視覚障害」「新撰組」等) 特徴的な言葉を入れると閲覧申請でタイトルが分からない作品を検索する手掛かりとなる。「あらすじ」はデータには入力していない。ロケ地情報は、制作者・自治体等からの問い合わせもあるので入力している。

#### ■脚本データベースについて連携の可能性は？

他の資料(スチール写真、ポスター、スクラップ)のデータが多く、独自の凡例にのっとり入力しているので連携は難しいのでは。

クラウドファンディングについて

#### 1) 企画・施行までの準備期間や流れ

準備期間は初回は4か月。2回目以後は2ヶ月。キュレーターに相談しながら、プロジェクトページを作り込んでいく。

平成27年度4回目のスケジュール

7～9月準備（プロジェクトページの作成。リターン商品決定等）

9月～10月 募集期間50日（支援者にメール返信。関係者知人等にメールで周知。

関連機関の情報誌等に記事掲載。関連機関にビラを配布）

11月 リターンの準備。（カバーに名前を入れる脚本の選定など。）

5万円支援者に図書館見学会開催。

12月 支援者へのリターン発送完了

1月 入金。デジタル化台本を立命館大学に送付

1万円以上の支援者の名前記載終了

4月 最終報告書送付（メール）

## 2) 購入型クラウドファンディングの「提供物」「サービス」について

実際にサービスを行うについての作業量など。

- ・「提供物」にかけた金額は5万円ほど。（別会計より）「リターン」への協力も支援の一環だと訴えて、お金がかからない方法を探す。実際に来る人は少ないが、書庫見学会は人気。（資料保存意識の高い支援者が多いので収集作業を手伝ってもらうのも好評）
- ・常に情報発信が必要。キャンペーン開始から事業終了までサイトで新着情報を50回発信。（頻度としては週に1～2回）写真を使って視覚で訴える。
- ・支援者一覧DBの作成（ニックネームと本名の紐付け作業）



## 東京芸術大学 藤田嗣治アーカイブ

日時：平成 28 年 10 月 7 日 13 時～15 時

場所：東京芸術大学大学美術館

文部科学省科学研究費補助金（2012 年度～2015 年度）「遺品調査による藤田嗣治研究—君代夫人旧蔵資料のアーカイブ化と公開—」（基盤研究（B））で作成した藤田嗣治アーカイブのデータベースと藤田の資料の分類保存方法について、東京芸術大学助教授 岡本明子氏と慶応義塾大学アートセンターの久保仁志氏にお話を伺った。

### ■藤田嗣治資料データベース

「東京芸術大学美術館」HP内の「収蔵品」→「研究資料」をクリックするとカテゴリーリストと資料一覧が閲覧・検索できる。

資料総数は 5808 点。藤田嗣治氏の夫人、君代氏から 2010 年に寄贈された 1930 年代および 1950 年代以後の写真、書簡、メモ等が中心。全ての資料は撮影またはスキャンによってデジタル化されている。



データベース化も含めた資料の分類・整理に約 5 年。作業頻度と人数は週 2 日で常時作業員 5 名の体制。

データベースは、多くの美術館・博物館で導入されている「早稲田システム」の「IB MUSEUM SaaS」を採用。

館独自でデザイン等を作りこむことはできないが、クラウドベースでの情報管理なので、メンテナンスは不要。

### ■資料の分類

同一の物が存在しない単独資料には「A」、印刷物など複数存在するものは「B」に分類。

「A 1」（書簡）は 「A 1\_1（封書）」「A 1\_2（葉書）」「A 1\_3（便箋）」

「A 1\_4（封筒）」「A 1\_5（電報）」と、種類別に分類。

「A 2」（ドキュメント）の日記やメモは手帳・日記帳など冊子状の形態のものには

「A 2\_1」、束ねられていなかったり、冊子からちぎられたりした紙 1 枚のシート状のものは「A 2\_2」と、形態別に分類。

一番点数の多い写真資料「A 4」は、フィルム「A 4\_1」と紙焼き写真「A 4\_2」に分類。紙焼き写真は、人物・風景等のイベント写真「A 4\_2\_1」と藤田の作品の写真「A 4\_2\_2」、藤田の作品以外の写真「A 4\_2\_3」、その他「A 4\_2\_4」に分類。

資料の年代は、可能な限り資料から採取し、西暦年・月・日の順で記載。整理の過程で類推された年代については、c. (シルカ記号)を付している。(例 c.1953~1963) 年代の判明しない、また類推不可能な資料については、各リストの最後に置いた。

それぞれの資料の表題は客観的に判断するため、メモ等の場合は最初の1行に書かれている内容を採用。藤田本人がつけたと思われる表題については表題の後に[フジタ]とつけて区別している。(例「ラルーさん90才誕生日」[フジタ])

資料には、資料の内容や形体、年代に関わらないURN (ユニホームリソースネーム) という通し番号をつけて管理している。(例 FT00503)

### ■資料の保存方法

中性紙の封筒に入れると、資料の内容を確認する際に袋から出し入れする頻度が増え、原本を傷めてしまうので、透明のポリプロピレンの袋に入れて保存。



紙の袋等で保存すると、資料の呼吸を邪魔しないというメリットはあるが、埃等の異物が付着した場合に変質し、資料を傷めるデメリットもある。

ポリプロピレンは呼吸ができないというデメリットがあるものの、素材は不活性で変質しにくいというメリットがある。

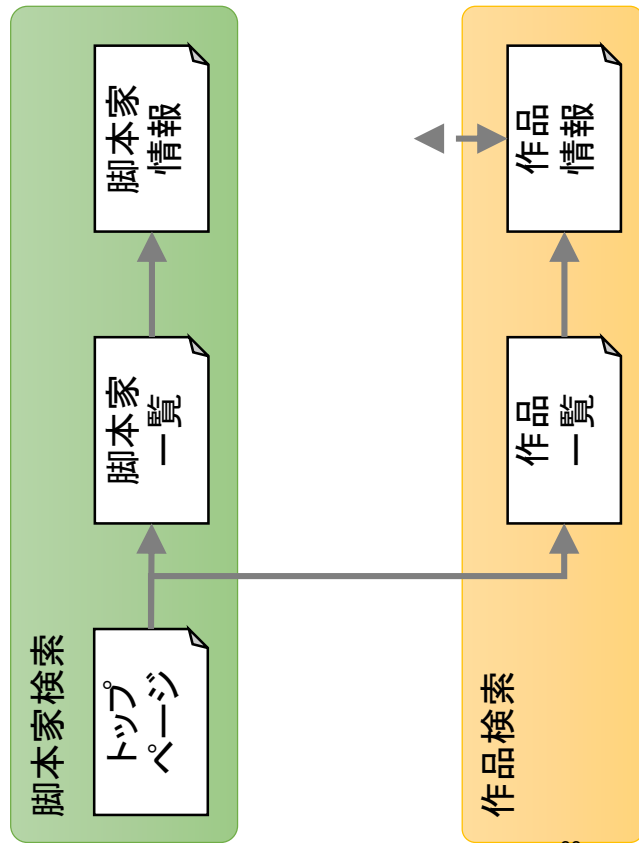
袋に入れた資料は、穴空きのポケットアルバム状のバインダーに入れ、バインダーの裏表紙には富士フィルム社製のガス浄化剤を添付し酸化による劣化を防いでいる。シート状の保存には、英国製の箱型のバインダーを使用。留め金を上にして立てた状態で保存すれば、シートは下に吊り下げられた状態になるので、よれたり皺がよったりすることがない。



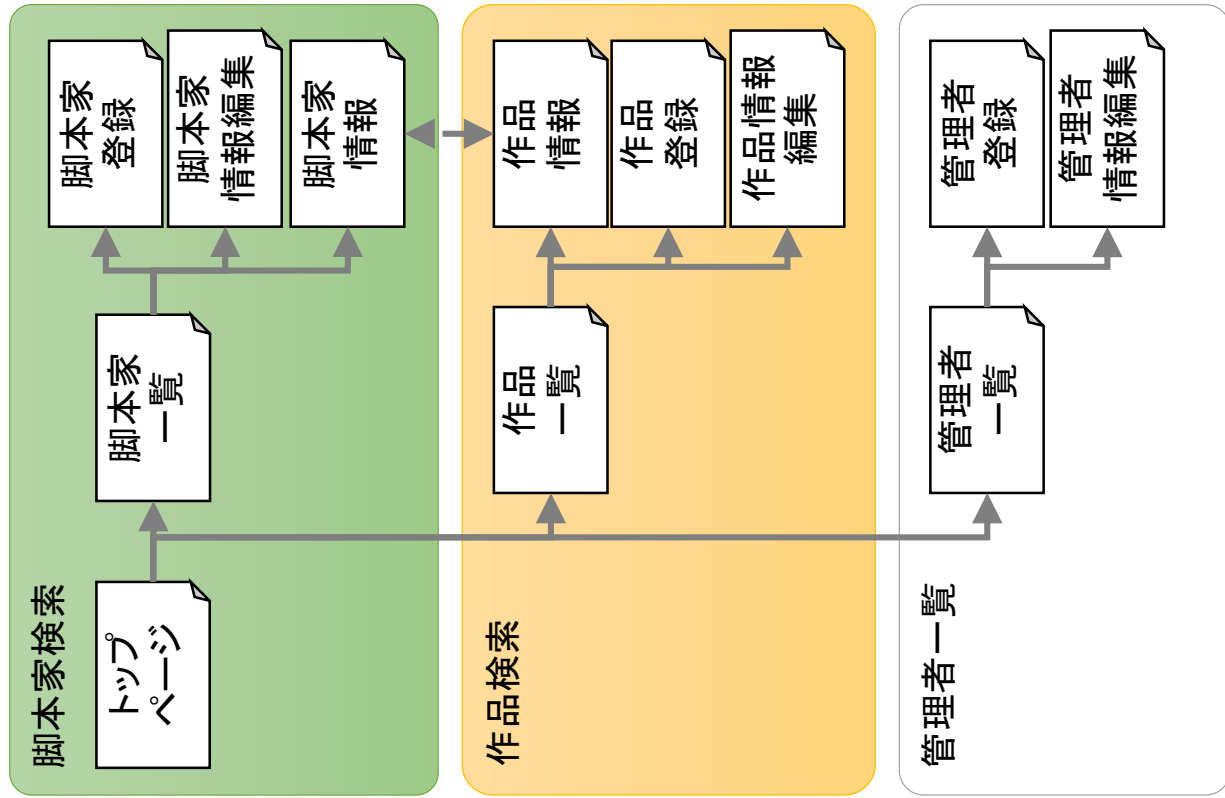
2. 脚本家データベースのプロトタイプ (PDF)

脚本家データベース画面遷移図

一般向け画面



管理者向け画面



## ■脚本家データベース プロトタイプ

【一般向け画面】（インターネット公開・検索のみ可能）

### ■ TOP ページ

## 脚本家データベース

Home [脚本家検索](#) [作品検索](#)

現在、登録されている脚本家は11名です。

[一覧](#)

### 脚本家を検索する

キーワード

生年

没年

[検索](#)

### ■ 脚本家一覧

## 脚本家データベース

Home [脚本家検索](#) [作品検索](#)

[トップ](#) > 脚本家一覧

### 脚本家一覧

キーワード

生年  没年

[検索](#)

全 11 件中 11 件 1 件 ~ 11 件目を表示

脚本家ID	標目	名前 (別名)	生年	没年	肩書き等
10	<a href="#">赤瀬川 原平</a>	赤瀬川 克彦	1937	2014	
1	<a href="#">永 六輔</a>	永 孝雄	1933	2016	
11	<a href="#">尾辻 克彦</a>		1937	2014	
2	<a href="#">鈴木 健二</a>				大学教員
8	<a href="#">鈴木 健二(1929-)</a>		1929		美学
9	<a href="#">鈴木 健二(1929-)アナウンサー</a>		1929		アナウンサー
7	<a href="#">鈴木 健二(1941-)</a>		1941		
6	<a href="#">鈴木 健二(1942-)</a>		1942		
5	<a href="#">鈴木 健二(1944-)</a>		1944		
4	<a href="#">鈴木 健二(1945-)</a>		1945		大学教員
3	<a href="#">鈴木 健二(1957-)</a>		1957		大学教員

## ■ 作品一覧

脚本家データベース Home 脚本家検索 作品検索

トップ > 作品一覧

### 作品一覧

キーワード  検索

全 1 件中 1 件 1 件 ~ 1 件目を表示

ID	作品名	作者名	説明文
1	<a href="#">上を向いて歩こう</a>	作詞：永六輔、作曲：中村八大	「上を向いて歩こう」（うえをむいてあるこう、別名：スキヤキ、SUKIYAKI）は、坂本九の楽曲。

## ■ 作品情報

脚本家データベース Home 脚本家検索 作品検索

トップ > 作品一覧 > 作品情報

### 作品情報

#### 上を向いて歩こう

作品ID 1

作品名よみ ウエヲムイテアルコウ

作者名 作詞：永六輔、作曲：中村八大

説明文 「上を向いて歩こう」（うえをむいてあるこう、別名：スキヤキ、SUKIYAKI）は、坂本九の楽曲。

#### 脚本家情報

No.	標目	名前（別名）	生年	没年	肩書き等
1	<a href="#">永六輔</a>	永孝雄	1933	2016	

上記テスト環境では、すでに公表されている著作者をテストデータとして 11 件ほど入力しテストを試みている。

人名データベースでありがちな、同姓同名データへの対処として、図書館の著者名典拠データと同様に、「標目」項目を設けている。

テストデータの鈴木健二の例のように、同姓同名を生年や肩書き等の違いで一目見て区別できるようにした。

現状では、名前と生年、没年、肩書き等から自動生成している。

参考) NDL Web Authorities での例

<https://id.ndl.go.jp/auth/ndla/?qw=%E9%88%B4%E6%9C%A8%E5%81%A5%E4%BA%8C&g=all>

加えて、テストデータの赤瀬川原平と尾辻克彦のように、同一人物ながら、社会的には別人として活動しているようなケースは、これも図書館の著者名典拠データと同様に、「をも見よ」(See Also) 項目を用いて関連付けをできるようにしている。

参考) NDL Web Authorities での例

<https://id.ndl.go.jp/auth/ndla/?qw=%E8%B5%A4%E7%80%AC%E5%B7%9D%E5%8E%9F%E5%B9%B3&g=all>

なお、あわせて作品のデータも登録できるようにした。脚本家のデータとも関連づけられるようにしているが、現在の脚本データベース (<http://db.nkac.or.jp/>) にあるような収蔵としての脚本データではなく、あくまで作品データのため、今後脚本データベースのデータを移行を予定し、この作品データは図書データでいう書誌の立場になるものとして考えている。

現状では、プロトタイプのため足りない項目があるが、公開するまでにはデザインの適用など検討していきたい。

「脚本家データベース」は、放送脚本におけるオーファン作品候補（著作権管理団体に所属しておらず、プロダクション等を検索できない作家の作品）の検索にも資するものと考えている。

## ■ 管理者向け画面

パスワード管理により、管理者はどこからでも登録可能。

### 【脚本家一覧の管理画面】

ID	題目	人物名	人物名ヨミ	生年	没年	操作
1	永六輔	永六輔	エイロクスケ	1933	2016	編集 削除
2	鈴木健二	鈴木健二	スズキケンジ			編集 削除
3	鈴木健二(1957-)	鈴木健二	スズキケンジ	1957		編集 削除
4	鈴木健二(1945-)	鈴木健二	スズキケンジ	1945		編集 削除
5	鈴木健二(1944-)	鈴木健二	スズキケンジ	1944		編集 削除
6	鈴木健二(1942-)	鈴木健二	スズキケンジ	1942		編集 削除
7	鈴木健二(1941-)	鈴木健二	スズキケンジ	1941		編集 削除
8	鈴木健二(1929-)	鈴木健二	スズキケンジ	1929		編集 削除
9	鈴木健二(1929-)アナウンサー	鈴木健二	スズキケンジ	1929		編集 削除
10	赤瀬川原平	赤瀬川原平	アカセガワゲンペイ	1937	2014	編集 削除
11	尾辻克彦	尾辻克彦	オツジカツヒコ	1937	2014	編集 削除

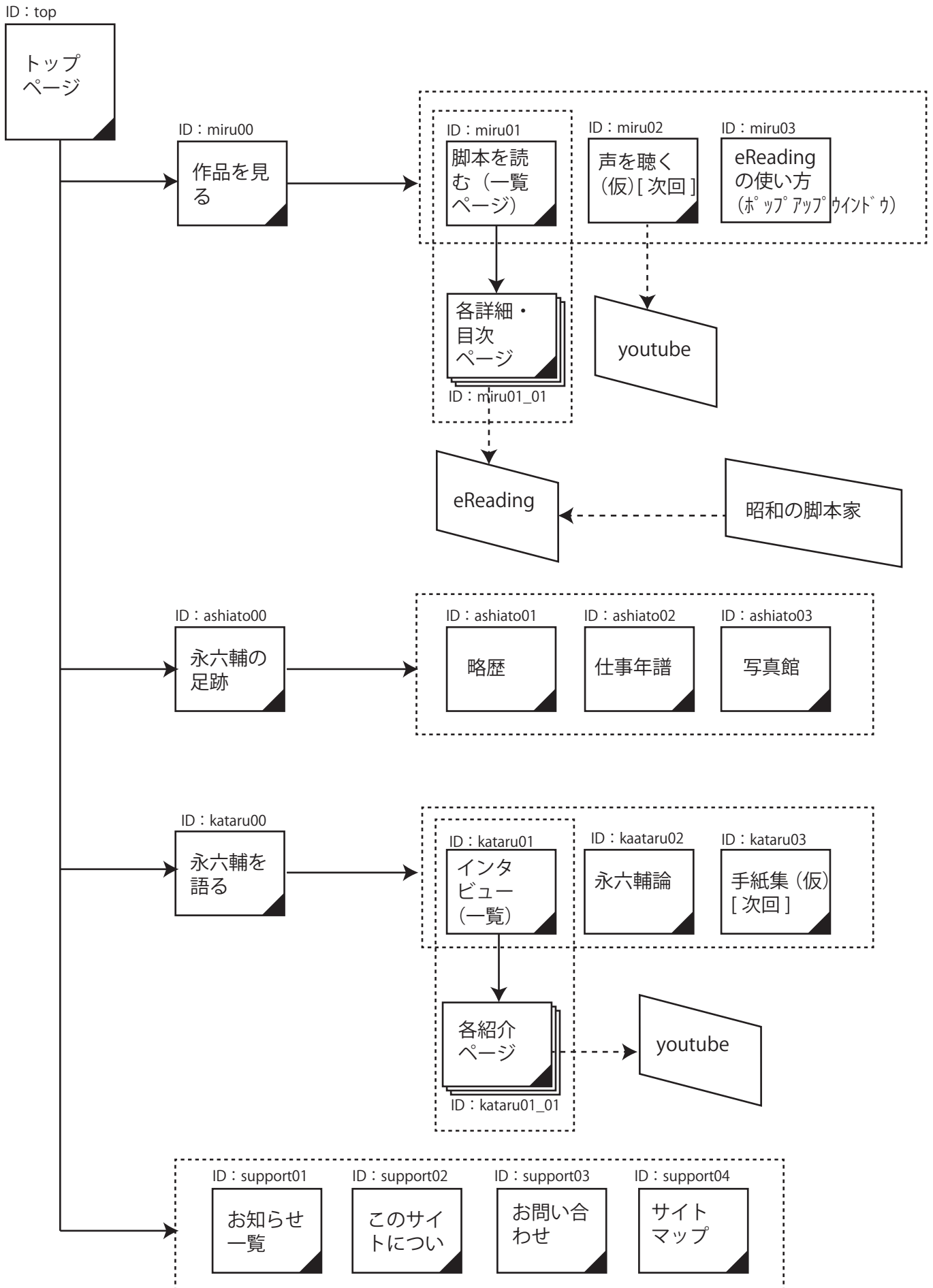
## 【脚本家登録画面】

## 【作品検索の管理画面】

## 【脚本家検索結果の管理画面】

脚本家	更新日時
鈴木 健二	2017-03-21 10:10:42
尾辻 克彦	2017-03-21 09:43:18
赤瀬川 原平	2017-03-21 09:40:08
鈴木 健二	2017-03-21 09:35:13
鈴木 健二	2017-03-21 09:33:48

永六輔バーチャル記念館 サイト全体構成マップ





永六輔  
バーチャル記念館  
Rokuseki Ei Virtual Memorial  
Archive Website

作品を見る  
脚本を読む  
声を聴く (仮)  
eReading の使い方

永六輔の足跡  
略歴  
仕事年譜  
写真館

永六輔を語る  
インタビュー  
インタビュー  
永六輔論  
仲間たちのサイン集 (仮)

サポート  
お問い合わせ一覧  
お問い合わせ  
お問い合わせ  
お問い合わせ



新着情報

2015年11月22日  
2015年10月21日  
2015年10月19日  
2015年10月10日  
2015年10月01日

作品を見る  
脚本を読む  
ラジオを聴く  
eReadingの使い方

永六輔の足跡  
略歴  
仕事年譜  
写真館

永六輔を語る  
インタビュー  
インタビュー  
永六輔論  
仲間たちのサイン集 (仮)

永六輔を語る  
インタビュー  
インタビュー  
永六輔論  
仲間たちのサイン集 (仮)

永六輔の足跡  
略歴  
仕事年譜  
写真館

サポート  
お問い合わせ一覧  
お問い合わせ  
お問い合わせ  
お問い合わせ

永六輔を語る  
インタビュー  
インタビュー  
永六輔論  
仲間たちのサイン集 (仮)

永六輔の足跡  
略歴  
仕事年譜  
写真館

サポート  
お問い合わせ一覧  
お問い合わせ  
お問い合わせ  
お問い合わせ

ヘッダーメニュー

- [作品を見る]
- 脚本を読む
- 声を聴く (仮)
- eReading の使い方
- [永六輔の足跡]
- 略歴
- 仕事年譜
- 写真館
- [永六輔を語る]
- インタビュー
- 永六輔論
- 仲間たちのサイン集 (仮)
- [サポート]
- お知らせ一覧
- お問い合わせ
- サイトマップ

フッターメニュー

- このサイトについて
- 関連リンク
- 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム
- 脚本データベース
- copyright © 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム. All Rights Reserved.







永六輔 永六輔を語る サポート

永六輔 永六輔を語る サポート

① 関係者インタビュー

② 永六輔論

③ 仲間たちのサイン集

永六輔 永六輔を語る サポート

永六輔 永六輔を語る サポート

① 関係者インタビュー

② 永六輔論

③ 仲間たちのサイン集

永六輔 永六輔を語る サポート

永六輔 永六輔を語る サポート

① 関係者インタビュー

② 永六輔論

③ 仲間たちのサイン集

永六輔 永六輔を語る サポート

永六輔 永六輔を語る サポート

① 関係者インタビュー

② 永六輔論

③ 手紙集 (仮) [ 次回 ]

永六輔 永六輔を語る サポート

永六輔 永六輔を語る サポート

① 関係者インタビュー

② 永六輔論

③ 手紙集 (仮) [ 次回 ]

youtube



## 永六輔氏脚本資料電子化作業仕様

－電子化仕様－

- 1) 認識サイズ：原寸認識
- 2) 解像度：400dpi
- 3) 階調特性：24ビットフルカラー
- 4) データ形式

①JPEG2000 保存用（可逆圧縮）

②JPEG2000 提供用（非可逆圧縮）

※画像に埋め込むコメント（シグニチャ）の Copyright は

Copyright: The consortium for the promotion of broadcast script archives  
とする。

③JPEG（標題紙部分サムネイル画像）

④PDF

- 5) 格納メディア

外付け HDD（ポータブル可）（上記4）①～④）ウイルスチェック実施

- 6) ファイル名

①JPEG2000 ファイル名

管理番号+4 桁連番

例：夢で逢いましょう 第18回 1ファイル目 → ei01 - 0001\_0001

②PDF ファイル名

管理番号

例：夢で逢いましょう 第18回 →ei01 - 0001

③JPEG ファイル名

管理番号

例：夢で逢いましょう 第18回 →ei01 - 0001

- 7) フォルダー名

①JPEG2000

JPEG2000→保存用、提供用→管理番号

②PDF

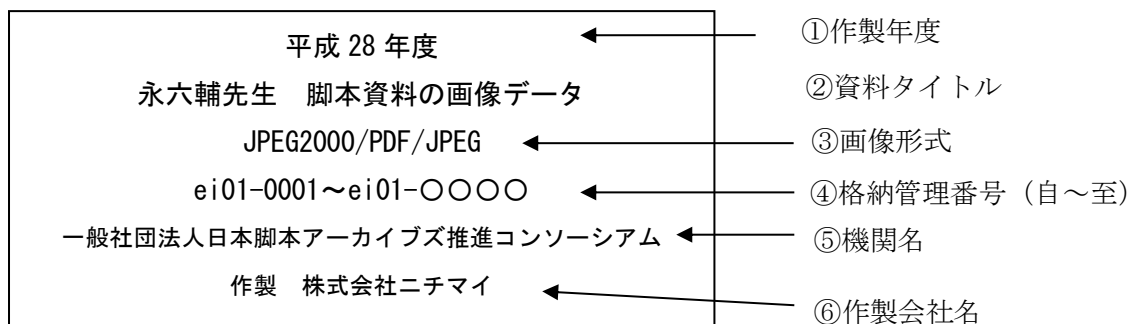
PDF→管理番号

③JPEG

Thumbnail→管理番号

※11) 参照

8) HDD ラベル

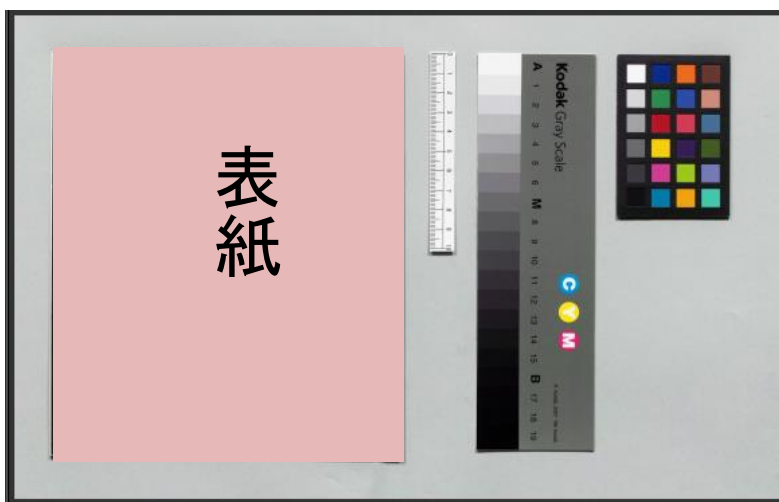


9) HDD 格納イメージ

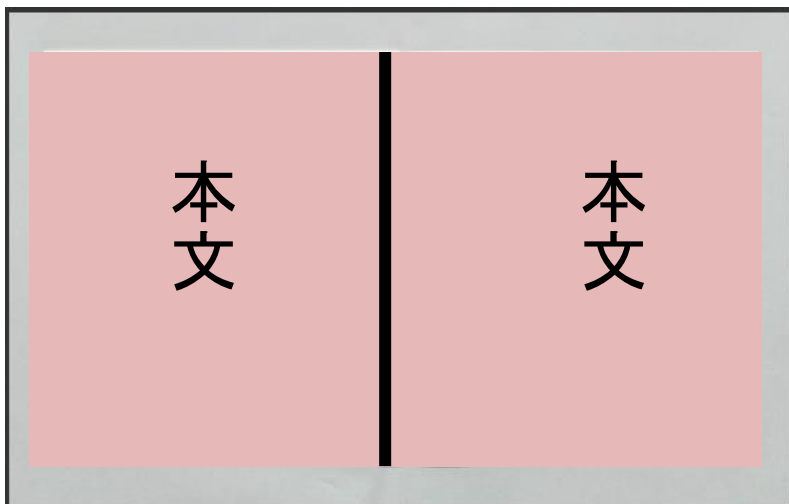


10) スキャニング時の原本及びスケール・チャート類の位置及びスキャニングエリア  
原本見開きに対して 110%程度とする。

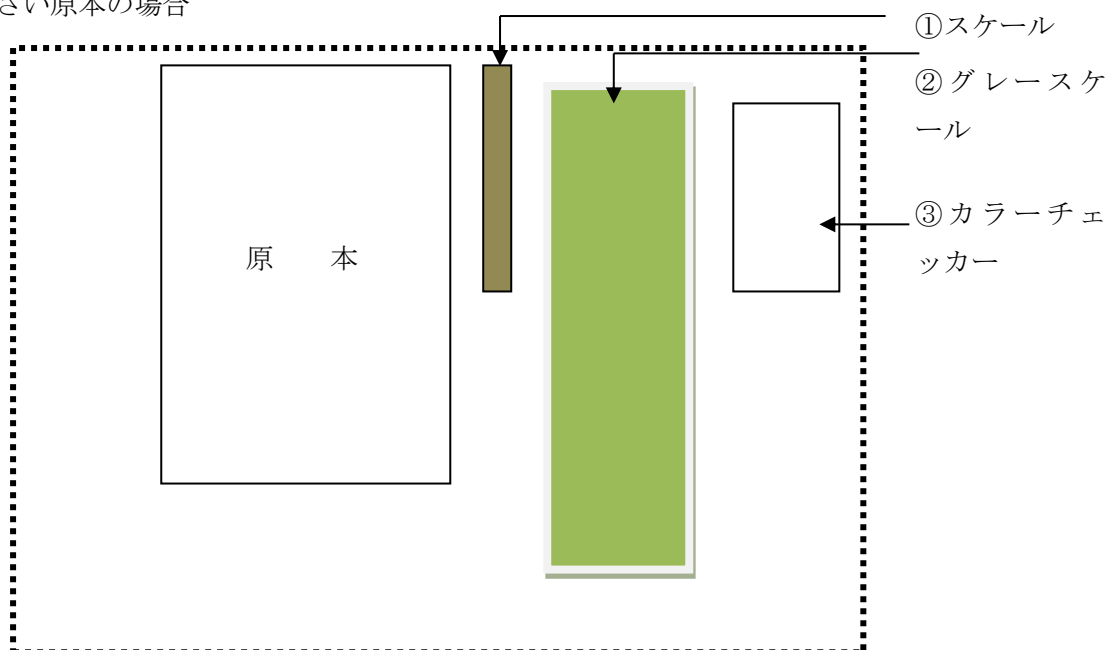
表紙



本文



小さい原本の場合



小さい原本の場合には、スケール・チャート類の位置及びスキャニングエリアは固定し、スキャニングを実施する。

原本の位置はスケールにおおよそ合わせて配置する。



## ■NHK 放送博物館所蔵脚本のデジタル化

永六輔氏が所蔵していた「夢であいましょう」の脚本は 冊。そのすべてをデジタル化した  
が欠損している脚本が〇〇冊あることがわかった。特に初回から数回が抜けていることから、  
NHK 放送博物館のご協力のもと、館内にて機材を持ち込み撮影を実施した。

### 永六輔脚本資料電子化作業の実施概要について （報告：株式会社ニチマイ）

#### (1) 作業内容

##### 1) 作業概要

永六輔脚本資料のスキャニング及びデジタルカメラ撮影を行い画像データを作製する。

##### 2) 作業対象資料

①スキャニングによる画像データ作製対象資料（弊社作業場所にて実施）

夢で逢いましょう 197 話分（合冊 23 冊分）

別紙 株式会社ニチマイ社内作業対象リスト通り

②デジタルカメラ撮影による画像データ作製対象資料（NHK 放送博物館内にて実施）

夢で逢いましょう 1 話、2 話、3 話、26 話、27 話（合冊 2 冊分）

※資料所管機関及び資料状況により画像データ作製方法を上記の通り別々の手法を採用した。

#### (2) 作業工程について

##### 1) スキャニングによる画像データの作製

①作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業

②スキャニング作業

③画像検査作業

④画像ファイル変換作業

⑤最終検査及び納品メディアへの格納作業

※①～⑤まで全て弊社作業場所にて実施。

##### 2) デジタルカメラ撮影による画像データの作製

①デジタルカメラ撮影作業前整理作業

②デジタルカメラ撮影作業

③一次画像検査作業（画質、撮影漏れの検査）

④二次画像検査作業（傾き等の検査）

⑤画像ファイル変換作業

⑥最終検査及び納品メディアへの格納作業

※①～③は NHK 放送博物館にて実施。④～⑥は弊社作業場所にて実施。

#### (3) 電子化仕様（デジタルカメラ撮影も以下仕様に準拠する）

1) 解像度：400dpi


- 2) 認識サイズ：原寸認識
- 3) 階調特性：24ビットフルカラー
- 4) データ形式  
シングルTIFF/PDF
- 5) 格納メディア  
HDD

**(4) 使用機器**

- 1) スキャニング作業使用機器

コニカミノルタ社製 EPICWIN5000CMK II Lab ×1台 (弊社所有機器)

機器仕様

EPICWIN5000CMK II Lab	
	
出力解像度	200、240、300、400、600 (光学解像度 400dpi)
スキャンモード	24bit カラー、8bit グレyscale、2値
原稿サイズ	330mm×460mm
サイズ	W674mm×D787mm×H918mm
生産国、メーカー	日本 コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社

※EPICWIN5000CMK II Lab の画像及び仕様はコニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社の当該機カタログより抜粋。

- 2) デジタルカメラ撮影作業使用機器

キャノン社製 EOS 5D SR ×1台 (弊社所有機器)

機器仕様

EOS 5D SR



カメラ部有効画素	約 5,060 万画素
撮影画面サイズ	約 36mm×24mm
使用レンズ	コンパクトマクロレンズ 50mmF2.5
サイズ	W152mm×D76.4mm×H116.4mm
生産国、メーカー	日本 キヤノン株式会社

(5) 作業実施時期・場所等

1) スキャニング作業

①作業期間及び作業時間

平成 28 年 7 月 14 日～平成 28 年 8 月 26 日（作業日数：27 日間（夏季休業 3 日間を除く））

・作業時間：9 時～17 時 30 分

②作業場所

・弊社作業場所：株式会社ニチマイ 〒113-0033 東京都文京区本郷 1-10-9

③作業体制

- ・前整理作業 2 名
- ・スキャニング作業 1 名～2 名
- ・画像検査作業 2 名
- ・画像変換作業 1 名
- ・最終検査納品メディアへの格納作業 1 名

④作業数量

・6,393 ファイル

2) デジタルカメラ撮影作業

①作業期間及び作業時間

平成 28 年 11 月 28 日

・作業時間：10時～17時

②作業場所

・弊社作業場所：NHK 放送博物館 〒105-0002 東京都港区愛宕 2-1-1

③作業体制

- ・前整理作業、一次画像検査作業者 1名
- ・デジタルカメラ撮影作業者 1名
- ・二次画像検査作業者 1名
- ・画像変換作業者 1名
- ・最終検査納品メディアへの格納作業 1名

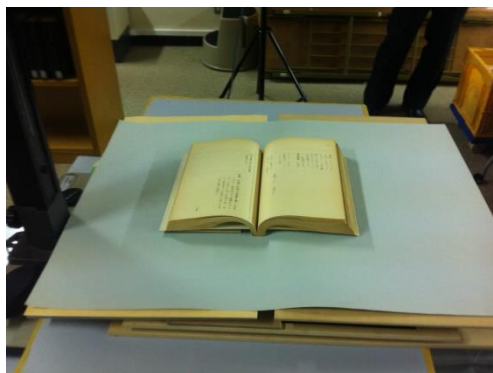
④作業数量

・143 ファイル

⑤NHK 放送博物館 デジタルカメラ撮影作業風景

・デジタルカメラ撮影作業機器設置状況

・資料撮影状況



・作業状況



(6) その他

1) 資料状態について

①スキャニング作業対象資料

- ・資料の一部については酸性劣化しているものがあった。
- ・合本製本の綴じがきつく頁の開きが良くない資料があった。

#### ②デジタルカメラ撮影作業対象資料

- ・NHK 放送博物館所蔵の資料は合本製本の表紙及び裏表紙部分が破損している状態であった。
- ・合本製本の綴じがきつく頁の開きが良くない状態であった。

### 2) 資料取り扱いについて

#### ①スキャニング作業

- ・頁の開きが良くない状態であるので、綴じ部分への負荷をなるべくかけないように使用するスキャナーのブックホルダー（資料を載せる部分）の微調整を頻繁に行いスキャニング作業を実施した。

#### ②デジタルカメラ撮影作業

- ・頁の開きが良くなく且つ合本製本の表紙及び裏表紙が破損している状態であったため、専用のブックホルダーを使用し、資料への負荷を軽減するようにしてデジタルカメラ撮影作業を実施した。

### 3) 資料の管理について

- ・資料点数の管理・・・作業前に資料確認をおこなって資料点数（合冊製本数）管理を行った。
- ・合冊製本の冊数と脚本の件数は異なるため、事前に提供された1話毎のリストと照合してリストと実際の資料とに差異がないか確認を行った。

### 4) 資料形態等

- ・全ての資料が合冊製本されていた。

## IV 教育普及および人材育成について

### ① 中学生のワークショップ

ラジオ脚本創作のワークショップを開催

- 開催場所：両国中学校
- 参加人数：14名
- 講師：北阪昌人ほか
- 開催：7月28日



ラジオ創作ワークショップ

### ② 小学生向け映像制作ワークショップ

60秒の映像制作ワークショップ

- 開催場所：川崎市市民ミュージアム、NHK放送博物館、品川区児童センター、六行会ホール  
※世田谷文学館（池尻まちづくりセンター1月開催予定）
- 参加人数：20名×8回
- 開催：5月～12月



NHK放送博物館開催  
インターン学生が指導

### ③ 他機関主催のワークショップ見学

『中学生のための「情報番組制作」ワークショップ2016★』

- 開催場所：日本大学芸術学部江古田校舎
- 内容：練馬区の中学生と日大芸術学部学生でつくる番組制作
- 参加人数：18名（中学生）



中学生の情報番組制作

### ④ インターンシップの受け入れ

- 城西国際大学3年生
- 入力作業13名（週2回2週間ずつ4チーム）
- ワークショップ補助：8名（2日間）
- 11月11日～12月16日



ワークショップ指導者養成

### ⑤ 入力および資料整理見学受け入れ

- 藤女子大学3年生3名。
- 北海道放送の資料室整理を担当する学生と共に、入力項目などの課題共有を行った。

## 藤女子大学の試み

### 図書館情報学課程におけるアクティブ・ラーニング ～マスコミ資料室記録資料の活用に向けて～

下田尊久（藤女子大学教授）

日本の教育現場ではいま「アクティブ・ラーニング」というキーワードが盛んに使われている。2012年の中教審による大学教育の質的転換答申(\*1)において大学教育における人材育成は“知識の伝達・注入を中心とした授業”から、“学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修（アクティブ・ラーニング）”への転換が必要であるとした。従来の知識詰め込み型から、教員と学生が相互に知性を高めていく学生主体の学士課程教育に換えていくことを求めている。もっとも教職課程や司書課程などの資格取得教育ではこれまでも教室内発表や模擬授業、実務体験などある種のアクティブ・ラーニングな手法が用いられている。藤女子大学図書館情報学課程でも、図書館実習、インターンシップ等による実務体験研修を実施しており、座学を補う学びを実務体験で深めてきた。それをさらに進化させたアクティブ・ラーニングとして、地域社会に提案ができる授業を模索している。課程内の1コマの授業でこれからの図書館サービスを考えるグループ研究を実施し、学生の主体的な課題設定とその成果をもとに提案を行うことを目指している。その事例として研究グループが行っているマスコミ資料室の現状把握と改善策を提案する取り組みの一端を紹介する。

#### ■マスコミ資料室と放送番組制作資料

民間ラジオ放送が次々と開局した1951年～1952年の時期に、北海道では、(株)北海道放送（「HBC」）が誕生する。その後、テレビ放送が始まると1959年には札幌テレビ放送(株)が開局。現在は、日本の主要なキー局である日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京の5系列に沿った形で北海道にも民間のテレビ放送が5チャンネルある。これまでのマスコミに関するグループ研究では、道内の新聞社や放送局などそのいずれにおいてもとくに注目すべき資料室の活用や役割を見出せずに来た。そうした中で2014年からHBC資料室と関わるようになり、今夏は資料室をテーマに学生がグループ研究を行った。

この資料室の所蔵資料は新聞縮刷版、辞典類、年鑑、白書のみならず道内市町村をはじめ企業や学校の年史を所蔵しており、分類配架された資料は文学書などにも及んでいた。なかでも我々が注目したのはラジオ、テレビの番組制作に関連した保存資料である。(左写真)制作したドラマや報道番組の脚本、台本から写真やフィルム、番組表に至るまでまさにここはHBCアーカイブズであった。これら記録群は「保存」というよりも保管はされている存在を知る一部の利用者のみが使用するにとどまっていた。一方で近年、NHKアーカイブズ設立や日本脚本アーカイブズのデータベース(注2)が誕生し、1980年以前の番組の記録が注目されるようになり、HBCでも外部からの問い合わせでこれら所蔵資料群が情報源となる機会があることがわかった。そこでこの資料室および保存資料の今後の活用を検討するためHBC

と藤女子大学との協働プロジェクトが 2016 年夏に始まった。まず今年のマスコミ研究グループが 8 月に実務研修として所蔵資料の整理、アクセス環境の整備などを手掛けた。当時の番組制作担当者もそのほとんどが現役を引退して離れてしまっている中で資料の保存・廃棄のルールづくりに着手した。これまでの記録、そしてこれからの記録保存のためにこの協働作業で学びと実践を継続して行きたいと考えている。



(注 1)中央教育審議会 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申)」平成 24 年 8 月。

[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/132504](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/132504)

#### [8.1.pdf](#)

(注 2)日本放送作家協会の特別委員会 (平成 24 年 3 月に活動終了) による脚本アーカイブズ事業は「一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム」(<http://www.nkac.jp/>) の脚本データベースに引き継がれた。(web サイト 2016. 10.1 参照)



## V シンポジウム開催

### 脚本アーカイブズ・シンポジウム 2017

脚本アーカイブズのデジタル活用の未来～デジタル脚本と映像を共に楽しむ方法とは～

- 日時 2017年3月9日(木) 13時30分～17時
- 場所 早稲田大学 小野記念講堂
- 入場 無料
- 主催 一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム
- 共催 文化庁、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
- 後援 国立国会図書館、NHK、日本民間放送連盟、放送番組センター、放送文化基金  
放送人の会

#### ■内容

挨拶 文化庁長官、国立国会図書館長

#### ◇第1部 トークショー

「映像と共に脚本をたのしもう」

語り手 池端俊策（脚本家）

聞き手 岡室 美奈子（早稲田大学演劇博物館館長）

#### ◇第2部 パネルディスカッション

「デジタル脚本と映像アーカイブの可能性」 15:15～17:00

パネラー 今野勉（演出家、放送人の会会長）、福井健策（弁護士）

高野明彦（国立情報学研究所教授）、丹羽美之（東京大学大学院情報学環准教授）

司会 吉見 俊哉（東京大学大学院情報学環教授）



第一部 トークショー



第二部パネルディスカッション

## ■主催挨拶

日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム 副代表理事 上滝徹也

本日は脚本アーカイブズのシンポジウムにお越し戴きありがとうございます。本来であれば代表理事の山田太一がご挨拶するところですが、ご都合があつて、私が代理でさせて戴きます。山田さんですとお話自体が貴重な証言になるところですが、私ではそうはいきませんので、脚本アーカイブズの活動を簡単にご紹介して中身に入っていきたいと思います。脚本アーカイブズの活動は2003年に脚本家の市川森一さんがご提唱されて、それをいろんな脚本家の方がそれを受け継いで今日を迎えているわけです。現在、脚本アーカイブズでは先ほどもご紹介にありましたように8万3千冊の脚本を収集しております。そのうちの2万7千冊を国会図書館のご尽力によって公開しております。また、そのうちのある部分をデジタル公開しております。また、その他の脚本も川崎市市民ミュージアムとか早稲田大学坪内博士記念演劇博物館とかNHK放送博物館とか、いろんなところに集めた脚本を収めさせていただいています。また、同時にどこにどういふ脚本があるのかという脚本データベースの構築もやっております。一方、横浜には放送ライブラリーがあり、NHKのアーカイブズもあつて、こういうところでは過去の映像を見ることができるようになっています。つまり、今ようやくテレビ番組のアーカイブズのインフラが少し整ってきたというところだと思います。ですから、これから池端先生や今野さんのお話に出てくるとは思いますけど、脚本単体で読む面白さと映像だけを観る面白さ、また、映像と脚本を比べて見て、その脚本をどう映像化するかという葛藤などが脚本にある書き込みの中などに見られて面白いというか、いろんなことが学べるということがようやくできるようになってきたというわけですね。これから先、アーカイブズの利活用の問題に入っていくわけですが、そこでは権利処理の問題など、いろいろ困難な問題が横たわっております。それらをクリアしていくことも求められているわけです。それから、このアーカイブズの活動は文化庁の後援によって行っていますし、また国会図書館の公開も国会図書館のご尽力によって可能になったわけです。まだまだ集めなければならない脚本もあります。デジタル化も課題となっています。また、海外にも本当の意味の「クールジャパン」ということで脚本を発信する必要があるのではないかと考えています。やらなければならないことはたくさんありますが、活動を続けていくにはお金が必要です。今、いろんな補助金や助成金で活動しておりますが、これを日本の一つの大きな事業としてやっていくには、皆様の精神的なご支援とともに金銭的なご支援もいただかないとやっていけないという状態になっていくのではないかと恐われます。実際に利用していただければ、面白さがわかると思います。これからの脚本アーカイブズの活動にご支援をよろしくごお願い申し上げます。と、ご願いをしまして開会の挨拶に代えさせていただきたいと思ひます。本日はどうもありがとうございました。



## ■共催挨拶

文化庁次長 中岡 司 氏

ただ今紹介いただきました中岡でございます。

本日、関係機関のご協力によりまして「脚本アーカイブズシンポジウム 脚本アーカイブズ活用の未来」が開催できましたことおめでとうございます。歴史的、文化的価値のある資料は日本の歴史を知る上で貴重なものです。その中で脚本は様々な才能を集めて作り上げたテレビ・ラジオの作品の設計図であります。この設計図はテレビ・ラジオが今日にいたるまでにどんな歴史があったのか、また文化をどのように将来伝えていくのかを考える貴重な資料といえます。文化庁におきましては、文化関係資料全般におきまして、各分野の適正に応じた保存を進めてまいりました。その中でテレビ・ラジオ番組の脚本につきましては、一般的社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムに事業を委託しておりまして、本シンポジウムはその一環として行われております。当該事業の目的でありました、散逸等の危機があった脚本・台本約5万冊につきましては、既に公的機関への移管が進んでおりまして、現在は国立国会図書館におきましてテレビ・ラジオ番組の脚本および台本約2万7千冊が公開されてございます。また、平成28年度には川崎市市民ミュージアムでも脚本の公開が開始されるなど、今後も多くの方々に貴重な文化資料に触れる機会が増えることも期待されるところでございます。大切な文化資料としての脚本・台本につきましては、その保存・利活用をより効果的に進める上で関係者の間で今後のあり方を引き続き検討していただくということが重要でございます。本日はそのような議論の場を提供する機会でございます。有意義な意見交換が行えることをご期待申し上げます。最後でございますけど、本日シンポジウムにご登壇されますパネリストの皆様、主催者であります日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムの皆様、そして脚本・台本の保存・利活用にご協力いただいている多くの皆様に感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。



## ■後援挨拶

国立国会図書館長 羽入佐和子氏

本日、脚本アーカイブズシンポジウム 2017 がこのように盛大に開催されますことを、主催団体の一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムの皆様に心よりお慶び申し上げます。平成 24 年のコンソーシアム設立以来、多くの関係機関や団体のご協力によってアーカイブズの活動が前進を続け、そこに国立国会図書館も加わらせていただいておりますこと大変光栄に存じます。本日のシンポジウムのテーマは、「脚本アーカイブズのデジタル活用の未来」ということですのでデジタル化資料につきまして



の国立国会図書館の資料についての取り組みを少しだけご紹介させていただきたいと思えます。国立国会図書館には平成 23 年に文化庁との間で交わした協定がございます。それは「我が国の貴重な資料の次世代への継承に関する協定」というものでございますが、この協定ではテレビ・ラジオ番組の脚本もその対象としております。そして、日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムが集められました約 5 万冊のコレクションのうち 2 万 7 千冊ほどを御寄贈いただきました。これらは 1980 年以前の映像記録がほとんど残っていない時期の資料でございますが、すでに音楽映像資料室の東京本館の資料室というところをご利用戴いています。これらの資料の中には劣化が進み、取り扱いに注意を要する資料が多くございます。従いまして閲覧の目的は調査・研究のみに限定しております。この点からかんがえましても、デジタル化がいかに重要かということがわかります。そのデジタル化につきましてもコンソーシアムのご協力をいただきまして本日のチラシに記載がございますように平成 26 年度には 35 冊、翌 27 年度には 3 千冊の脚本をデジタル化いたしました。現時点でデジタルデータとしてご覧いただけるのは、最初のデジタル化 35 冊のみでございますけれども、近いうちにおそらく来週くらいから次の 3 千冊もデジタル化資料としてご利用いただけるかと思えます。これらのデジタル化画像は調査・研究目的に限らず、国立国会図書館デジタルコレクションを通して館内ではございますが端末で閲覧できるようになります。さらにこの 1 月からは 35 冊のデジタル化資料の大部分が当館の東京本館、関西館、国際こども図書館だけではなく、全国の公立図書館、また大学図書館などおよそ 800 館でも閲覧ができるようになりました。これは図書館向けデジタル化資料送信サービスというサービスの参加館に限定したものでありますけど脚本の閲覧の可能性が大きく広がりました。デジタル化によって資料が保存され、広く長期にわたり活用されますように国立国会図書館の資料のデジタル化にこれからも一層努めて参りたいと考えております。本日は脚本アーカイブズについて様々な観点から御議論がなされ新しい視点が開かれますことを祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

## VI 脚本アーカイブの展望に向けた課題整理

節目を迎えている本コンソーシアム活動の先々を見通す意味でも、今後の日本の文化アーカイブあるいは放送文アーカイブの一角をしめる脚本アーカイブ事業の、総合的な将来展望があらためて必要になってきている。

今までのアーカイブ活動の積重ねによって、人知れず眠っていた放送脚本が収集され、その一般公開が実現したことはまさに画期的であった。その状況をベースにすることで、ようやく脚本アーカイブに関連するさまざまな要素について現実的な議論がしやすい段階に入っているといえる。

ここでは現状を踏まえつつも、コンソーシアムの現在活動だけにこだわらずにより広義なものとしての「日本の脚本アーカイブ」をもう一度捉え直して、今後の展望を考える際の検討ポイントの確認をあらためて行う。

前提として、文化資産としての過去及び現在・これ以降の放送脚本は、より多くのものが著作者や制作者（主に放送局）が了解する範囲で体系的に保存され、著作者が了解する範囲でより良い形で一般公開され、その活用展開のあり方が検討・実践されていくべきという価値判断に立ってのこととする。

一般的なアーカイブの基本に則り、「収集」・「保存」・「公開」の3つの段階に分けて、それぞれにおける課題を考えることとする。

### 1 脚本の「収集」における検討ポイント

#### 1) どの脚本をどうやって収集するのか

##### ① 「対象限定収集」をどこまでするのか？

これまでの脚本収集は、網がけ的な呼びかけに応じた放送作家や関係者からの寄贈の「受動受入れ」が基本となってきた。脚本アーカイブズをより充実させるためには、「どのジャンルのどういう脚本」と収集対象を限定してその関係者にあたっていく収集をどこまでどう進めると、アーカイブ全体にとって有効なのか？

##### ② 「品揃え」をどう考えるか？

放送脚本はたとえば、ドラマ番組や人形劇、アニメ、子ども向け番組、またバラエティー・音楽・クイズ番組などの芸能番組、そして情報番組やワイドショーなどと、教養・教育番組、報道ドキュメンタリー、人間ドキュメント、スポーツ番組まで相当に多岐に渡っている。アーカイブの「ウリ」としては、その作品シリーズやそのジャンル、あるいは個別脚本家作品などがどれだけ揃っているかが重要とも言える。そういった「品揃え」についてどう考えていくのか？

##### ③ 2000年代以降の脚本保存の方法とは？

2000年代に入って以降の脚本は、データとして残されている可能性がある（脚本家自身

が残している場合や印刷会社に残っている等)。この時期以降の、そして今現在以降の脚本アーカイブズの活動は、既にあるデータをどうコントロールできるか、または今現在も生み出されていっている脚本のデータを集約する方法がどうありえるのか、等の基本フレームの議論が必要となる。その検討をどう進めていくのか？

## 2) 重複脚本、及び脚本以外の資料の扱い

### ① 同一番組で複数ある脚本をどうするのか？

同じ脚本が複数ある場合、準備稿や決定稿などのバージョン違いがある場合、書込みのない脚本と書込みのある脚本など、同じ番組の脚本でも様々な重複の可能性がある。公開を想定しつつ、そのどこまでを受け入れ、どこまでを他機関へ寄贈するか、などあらためて基準を検討しておく必要がある。

### ② 脚本以外の資料をどう扱うか？

放送作家や俳優・出演者、番組制作者からの寄贈においては、製本脚本だけでなく、自筆原稿、番組に向けてのメモ・企画書・シノプシスやハコ書きのほか関係資料、関連書籍・雑誌、録画・録音テープ、広報資料、関連グッズなどさまざまな資料と一緒に残されている場合がある（特に没故者遺族からの場合）。放送アーカイブ機関と連携し、そうした資料はどこが引き取り保管できるかを把握し仲介することも考えられる。その方法をどう探っていくのか？

## 3) 誰が収集⇒保存の主体になるのか

当コンソーシアムの現在の体制は、脚本アーカイブ活動（収集から公開までのフローを軸にした）の土台を固めるための暫定的な事業主体として運営されてきた。今後、土台の目的が付いた段階で組織の体制変更をした上でアーカイブ活動を続けてリードしていくか、または一般社団法人のコンソーシアムは終了してアーカイブの主体をどこかに委ねるのか、早急に検討を行っていく必要がある。

アーカイブの設計を中心に担い、収集作業を行って保存機関に移管し公開化を進め、またデータベース運営をしていく新たな「母体」をどう検討できるか？が今後最大のカギとなる。

## 2 脚本の「保存」における検討ポイント

### 1) 「分散保存」とデジタル連携

#### ① 「分散保存」の連携をどう進めるのか？

元より、番組を制作するために放送作家の原稿を印刷した放送局や制作プロダクションは、おそらくある時期以降（1980～90年代ごろか）相当数の脚本を保管してきている。また、関係者からの寄贈を受ける形で、全国の公共図書館や文学館、記念館等でも様々な脚本が保管されてきている。さまざまな場所に脚本が保管されている状態の「分散保存」

を前提にすると、そうした機関とのアーカイブ連携がカギとなってくるが、その連携方法はどうか進めていくべきなのか？

## ② 「デジタル脚本アーカイブズサービス」サーバーの可能性は？

後々はどこに脚本が保管されていても、それらがデジタル化されたデータが一括拠点となる、「デジタル脚本アーカイブズサービス」のようなメインサーバーにストックされていくことが理想といえる。そして、全国の公開施設でメインサーバー内の脚本を呼び出し閲覧できる体制に向かっていくための検討が進展するのが望ましいが、その可能性はどこまであるのか？

## 2) 検索データベースの進化とメタデータ

### ① 統合検索システム構築をどう進めるか？

ここまでの活動の中で脚本所蔵機関との連携による「統合検索システム」の議論がなされてきたが、この展開は、総合的に有効な方法を考えるために、文化アーカイブ全体のデジタル化の進展状況を見定めていく必要がある。

### ② メタデータをどう進化させるか？

脚本データベースの書誌データは年度ごとに改善・進化させてきたが、公開がより進むことにより、今後どう進化させていくかの検討を行う。

## 3) デジタル化保存の推進

### ① デジタル化に向けた安定した資金体制とは？

「分散保存」の所蔵機関の個々のすべてにデジタル化の予算がある訳ではないし、待っていてもその資金が降りてくる状況ではない。より「多くの」デジタル化を進めていくための安定した資金調達のあり方とはどうあるべきなのか？

### ② どの脚本を優先的にデジタル化するのか？

資金や手間のこともあり、デジタル化を推進していくには優先順位の検討が必ず必要になる。個々の場合での基準を策定することにはなるが、基本となる優先順位の検討はもつとあってもいいのかもしれない。

## 4) 保存機関と脚本アーカイブの推進組織の関係性

今後の脚本アーカイブの主体は、アーカイブ全体のコーディネートを行いつつ、保存施設と常に連携していく必要がある。アーカイブズ連絡会等を設ける等、恒常的な運営体制をどうするのか？

## 3 脚本の「公開」における検討ポイント

### 1) 一般公開と積極活用の具体的な可能性

#### ① 一般公開脚本の個別PR

国立国会図書館、川崎市市民ミュージアムと、ここまでの収集脚本の一般公開が既に始まっているが、この閲覧希望者はまだ大きな広がりを見せている段階ではない。前述したウリとなる「品揃え感」やオススメ作品など、脚本を読むことの「面白さ」「魅力」「効用」をもっと検討しPRしていくにはどうしたらいいのか？

### ③ 積極活用の方法拡大

ここまで脚本の利活用については、教育利用の可能性を追究するための試行錯誤を様々行ってきた。それを踏まえつつも、現在の一般利用以上の活用方法は他にはどういう形がありえて何がアーカイブにとって有効なのだろうか？

## 2) デジタル脚本アーカイブサイトの企画

「市川森一の世界」「藤本義一アーカイブ」「永六輔バーチャル記念館」というデジタル脚本アーカイブサイトの試行は、複数脚本のインターネット公開とその導入部分・付加価値を付けたことによる誘導というねらいを持って実施している。デジタル脚本がインターネット上で展開していくための、試行実験でもある。上記活用方法の拡大ともリンクをしてくるが、今後こうした企画をどう進展させていくか検討されるべきである。

## 3) 番組映像アーカイブとの「掛け合わせ」展開

脚本アーカイブは単独での展開でなく、映像アーカイブと掛け合わせた形の公開を行うと相乗効果があがるという議論が強まっているといえる。コンソーシアムでは、「市川森一の世界」の関連上映会イベントや脚本アーカイブズシンポジウムで映像活用との掛け合わせの試行作業を行ってきた。

このアーカイブの「掛け合わせ」がより効果を生む方法の検討は、まだ具体的には始まっていない。映像アーカイブがより背負っている著作権のクリアがこの展開の肝であり、今後様々な試行錯誤を経て色々な方法が編み出されて行くことを信じたい。



国立国会図書館、川崎市市民ミュージアムと、ここまでの収集脚本の一般公開が既に始まっているが、この閲覧希望者はまだ大きな広がりを見せている段階ではない。前述したウリとなる「品揃え感」やオススメ作品など、脚本を読むことの「面白さ」「魅力」「効用」をもっと検討しPRしていくにはどうしたらいいのか？

### ③ 積極活用の方法拡大

ここまで脚本の利活用については、教育利用の可能性を追究するための試行錯誤を様々行ってきた。それを踏まえつつも、現在の一般利用以上の活用方法は他にはどういう形がありえて何がアーカイブにとって有効なのだろうか？

## 2) デジタル脚本アーカイブサイトの企画

「市川森一の世界」「藤本義一アーカイブ」「永六輔バーチャル記念館」というデジタル脚本アーカイブサイトの試行は、複数脚本のインターネット公開とその導入部分・付加価値を付けたことによる誘導というねらいを持って実施している。デジタル脚本がインターネット上で展開していくための、試行実験でもある。上記活用方法の拡大ともリンクをしてくるが、今後こうした企画をどう進展させていくか検討されるべきである。

## 3) 番組映像アーカイブとの「掛け合わせ」展開

脚本アーカイブは単独での展開でなく、映像アーカイブと掛け合わせた形の公開を行うと相乗効果があがるという議論が強まっているといえる。コンソーシアムでは、「市川森一の世界」の関連上映会イベントや脚本アーカイブズシンポジウムで映像活用との掛け合わせの試行作業を行ってきた。

このアーカイブの「掛け合わせ」がより効果を生む方法の検討は、まだ具体的には始まっていない。映像アーカイブがより背負っている著作権のクリアがこの展開の肝であり、今後様々な試行錯誤を経て色々な方法が編み出されて行くことを信じたい。

---

平成 29 (2017) 年 3 月 31 日発行  
発行 一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

編集/執筆  
石橋映里・入山さと子

〒102-0081 東京都千代田区四番町 4-9 東越伯鷹ビル5階  
一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム  
TEL : 03-5210-7029 FAX:03-5210-7021  
Email : [nkac@hosakkyo.jp](mailto:nkac@hosakkyo.jp) <http://www.nkac.jp/>

印刷・製本 株式会社 三交社  
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町3丁目4番地 生泉市ヶ谷ビル  
TEL : 03-3267-3641 (代表) FAX : 03-3267-6220 [www.san24.co.jp/](http://www.san24.co.jp/)

本誌の無断複写（コピー）は、著作権上の例外を除き著作権侵害となります。



本報告書は文化庁の委託事業として、一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムが実施した平成 28 年度「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文化庁の承認手続きが必要です。